

平成21年度

新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業

実践報告書

母語教育支援センター校等連絡会

平成22年(2010年)3月

目次

1	平成21年度母語教育センター校一覧	1
2	実践事例	
(1)	神戸市立本山第二小学校	2
(2)	神戸市立こうべ小学校	4
(3)	神戸市立山の手小学校	6
(4)	神戸市立真陽小学校	8
(5)	神戸市立神陵台小学校	10
(6)	尼崎市立園田北小学校	13
(7)	西宮市立神原小学校	15
(8)	芦屋市立潮見小学校	17
(9)	伊丹市立池尻小学校	19
(10)	姫路市立花田小学校	21
(11)	姫路市立城東小学校	23
(12)	姫路市立東小学校	25
(13)	姫路市立花田中学校	27
(14)	姫路市立東光中学校	29
(15)	南あわじ市立湊小学校	31
(16)	各校が活用した教材・教具一覧	33
3	参考資料	
	平成21年度兵庫県之母語教育支援事業について－母語教育支援と日本語習得－	35
	龍谷大学経済学部 教授 田尻 英三	

平成21年度母語教育支援センター校一覧

NO.	市名	母語教育支援センター校名	言語名
1	神戸市	本山第二小学校	フィリピン語
2		こうべ小学校	中国語
3		山の手小学校	中国語
4		真陽小学校	ベトナム語
5		神陵台小学校	中国語
6	尼崎市	園田北小学校	ベトナム語
7	西宮市	神原小学校	インドネシア語
8	芦屋市	潮見小学校	スペイン語
9	伊丹市	池尻小学校	中国語
10	姫路市	花田小学校	ベトナム語
11		城東小学校	ベトナム語
12		東小学校	ベトナム語
13		花田中学校	ベトナム語
14		東光中学校	ベトナム語
15	南あわじ市	湊小学校	ポルトガル語

平成21年度
新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例
神戸市立本山第二小学校

1 支援言語：フィリピン語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) フィリピンから初来日後、5年目の小学校5年生、3年目の2年生、3年生、5年生、6年生、2年目の小学校6年生、各1名、合計6名(校内)
- (2) フィリピンから初来日後、2年目の中学校2年生、3年生各1名、合計2名(校外)

3 事業のねらい

- (1) フィリピン語の学習活動に興味をもって参加する態度を身に付ける。
- (2) 簡単なフィリピン語文を使って、質問したり応答したりすることができる。
- (3) 母国の文化、生活、民話等に関心を持ち、積極的に調べ、全校に向けて発表する。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学 期	フィリピン語であいさつしよう。	フィリピン語であいさつができる。	フィリピン語のあいさつを覚える。地域フェスティバルで発表する。	2
	フィリピン語を読もう。	フィリピン語を正確に発音できる。	フィリピン語とカタカナを比べながら、正確な発音をまねる。	4
	フィリピン語を書こう。	フィリピン語を正確に書くことができる。	基本的なアルファベットを覚える。 基本的なフィリピン語の文を書く。	10
2 学 期	フィリピン語の歌を歌おう。	フィリピン語の歌を歌うことを楽しむことができる。	簡単なフィリピン語の歌を歌う。地域フェスティバルで発表する。	6
	フィリピンの遊びやダンスを知ろう。	フィリピンの伝統的な遊びやダンスに関心を持つ。	フィリピンの伝統的な遊びやダンスについて調べたり、体験したりする。全校にフィリピンの遊びやダンスを紹介する。	6
	フィリピンの生活を知ろう。	フィリピンの生活に関心を持つ。	フィリピンでの生活体験をまとめる。全校にフィリピンの生活を新聞にして紹介する。	14
3 学 期	フィリピンの民話を知ろう。	フィリピンの民話を知る。	フィリピンの伝統的な民話を新聞にして全校で紹介する。	16
	フィリピンの文化を知ろう。	フィリピンの祭りや行事の由来を知る。	フィリピンの祭りや行事の由来について調べる。全校にフィリピンの祭りや行事を紹介する。	12

5 母語教育支援事例 (特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例)

(1) 事例1

ア 単元

フィリピンの民話を知ろう。

イ 指導目標

フィリピンの民話を知る。

ウ 指導内容・活動例

フィリピンの伝統的な民話がフィリピン語で掲載されている本を入手し、母語指導者により日本語に翻訳する。児童はそれに絵を描いたり、セリフを加えたりして絵本にする。また新聞にして全校に知らせる。

エ 指導・支援で留意した点

児童は一度読むと内容をわかったつもりになっているが、理解は不十分なことが多かった。それで、内容理解に関する読解テストをフィリピン語と日本語で十問ずつ作製し、読書後に実施した。

オ 成果

読解テストにより、児童たちは民話の内容を深く理解するようになり、絵本にする際にも適切な表現ができるようになった。

カ 課題

民話の内容によっては低学年の児童には難しいものもあるので、対象を限定したり問題を変えたりする必要がある。

(2) 事例2

ア 単元

フィリピンの生活を知ろう。

イ 指導目標

フィリピンの生活に関心を持つ。

ウ 指導内容・活動例

中学校の夏休みの課題で俳句や短歌で生活を表現するのがでた。中学校生徒たちは、フィリピンから来た心情を初めて俳句や短歌で表現することを体験した。

エ 指導・支援で留意した点

俳句や短歌での表現は初めてだったので、まず定型を理解し守るようにさせた。

オ 成果

中学校のクラスメイトもフィリピンから来た生徒たちの心情に共感することができた。小学校の児童たちも俳句で気持ちを表現することを始めた。

カ 課題

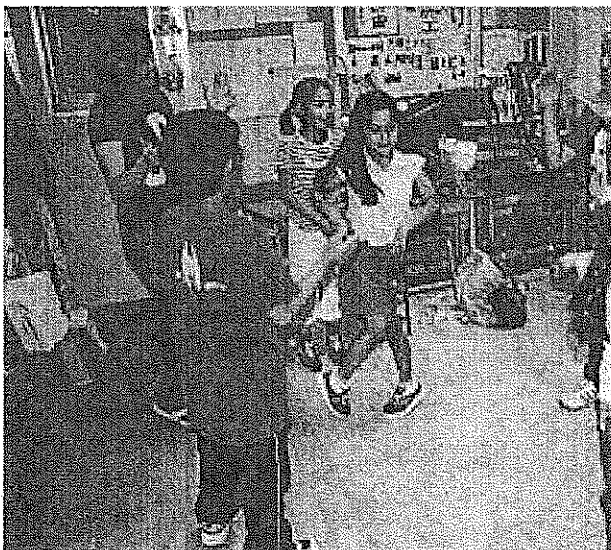
フィリピンの言葉をカタカナで表現することが児童生徒には難しかったので、今後指導が必要である。

6 成果

- (1) フィリピンの児童生徒たちが母国の文化に興味をもち、品物を一時帰国の際に買い揃えてきた。
- (2) 自尊感情が高まり、文化発表をいやがらなくなって、学級で文化発表をすることが増えてきた。
- (3) フィリピン語の民話を読むことを好むようになってきた。

7 課題

- (1) 学校の時間割の関係で母語指導の時間を低学年は水曜日の6校時にとった。高学年は月に1回のクラブ・委員会のない同時間にとった。その為、高学年には十分な時間がとれなかった。今後、高学年の時間をどう確保するかが問題である。
- (2) 校外の中学校生徒の指導は夏休みに集中して行ったが、これも十分な時間はできなかった。今後、時間をどう確保するかが問題である。
- (3) 小学校6年生の児童は県立芦屋国際中等教育学校への進学を希望し、中学校3年生の生徒は高校進学を希望している。それらの対策も課題である。
- (4) 思春期を迎えた児童生徒には、家庭の問題も相談にのる必要が出てきている。



使用した教材・教具等

- ・ジプニー（乗合バス）のおもちゃ
- ・トライシクル（三輪自転車タクシー）のおもちゃ
- ・スンカ（すごろく）
- ・フィリピンの帽子
- ・民族衣装(ミンダナオ島、ルソン島)

民話絵本

Bahay Kubo

(バハイ・クーボ、フィリピンの代表的な歌の伝説)

The Monkey and the turtle

(猿と亀の物語)

Ang Prinsipe ng mga Ibon

(鳥の王子様)

Ang Mahiyaing Manok

(恥ずかしがりやのおんどり)

Papel de Lisa

(紙やすりの手)

BUHOK ni LOLA

(ローラおばさんのみどりの髪)

The Love of Lam-ang

(ラムアーンの愛)

Si Emang Engkantada at ang Tatlog

Haragan

(魔法使いエマと三人の悪い子ども)

Ang Kamatis ni Peles

(ペレスのトマト)

Alamat ng Pagong

(亀の伝説)

Alamat ng Sampalok

(タマリンドの伝説)

Alamat ng Bayabas

(グアバの伝説)

Alamat ng Pinya

(パイナップルの伝説)

Alamat ng BUWAYA

(わにの伝説)

Alamat ng Ilog Pasig

(バシグ河の伝説)

Alamat ng MANGGA

(マンゴーの伝説)

Alamat ng Atis

(アティスの伝説)

Alamat ng Saging

(バナナの伝説)

Alamat ng Sibuyas

(たまねぎの伝説)

Ang Madyik ni Apo Meyor

平成21年度
新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語支援事業実践事例
神戸市立こうべ小学校

1 支援言語：中国語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 支援対象の児童は全員、中国や台湾で育って日本に来た。
- (2) 家庭での生活言語はほとんど中国語で、中国人としての自覚をもっている。
- (3) 母語教室を楽しみにし、中国語の本を熱心に借りて読んでいる。

3 事業のねらい

- (1) 母語の保持を図る。
- (2) 子ども達が思いやり母語を話し、表現できる居場所をつくる。
- (3) 日本語・中国語の共通点や相違点に気づき、学習言語習得の効果を高める。
- (4) 日本と母国の言葉や習慣に親しみ、違いを認め合い尊重する心を培う。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学 期	中国語で自己紹介をしよう	中国語で挨拶や自己紹介ができる	自己紹介の時、友だちの話を聞いてその内容を書く	6
	よく使う形容詞を使おう	形容詞を使って、身の周りの事を表現できる	ゲームをしながら話す、プリントに書く	6
2 学 期	中国語で物語を聞こう	中国語で物語を理解して楽しむことができる	CDで物語を聞いた後、感想や作文を書く	6
	日本の昔話にも親しもう	日本の文化や習慣を昔話を通して理解できる	「桃太郎」を中国語版で読む	8
	母語を使って日本語の学習言語を習得しよう	日本語と中国語を置き換えることができる	「にほんごワークブック」を使って学習する	16
3 学 期	母語を学習しながら、学習言語を習得しよう	日本語と中国語を置き換えることができる	「にほんごワークブック」を使って学習する	12
	中国の伝統文化を知ろう	「春節」や「元宵節」という伝統行事に関心をもつ	重要な伝統行事について調べる	8
	漢詩を読もう	漢詩のリズムを楽しむ	「楓橋夜泊」等を読む	4
	自分の思いを伝えよう	自分の思いを伝えることができる	この1年間を振り返って気づいた変化や自分の将来について話す	4

5 母語教育支援事例(特に日本語の学習言語習得に効果があった事例)

(1) 事例1

- ア 単元「日本の昔話にも親しもう」
- イ 指導目標
日本の昔話を通して文化や習慣に親しみ、中国語での表現を学習する。
- ウ 指導内容・活動例
「桃太郎」のピンイン付き中国語版を皆で一緒に読む。・練習問題に取り組む。
- エ 指導・支援で留意した点
低学年にとって難しい語彙は分かりやすく説明する。・練習問題の答えを褒めたり直したりする。
- オ 成果
四文字熟語の学習ができた。・日本語の熟語の学習に関連づけられた。
- カ 課題
中国語のレベルの差をどう対応するか。

(2) 事例2

- ア 単元「母語を学習しながら、日本語の学習言語を習得しよう」
- イ 指導目標
日本語と中国語との置き換え練習をする。・教科書の文章を理解する。
- ウ 指導内容・活動例
「にほんごワークブック」を使って、動詞の「ない」形を学習する。
- エ 指導・支援で留意した点
動詞によって「ない」形の変化が違うのを意識させること。
- オ 成果
日本語は動詞によって変化が違うことが理解でき(中国語：否定は動詞の前に「不」をつければよい)自信をもって日本語学習ができるようになった。
- カ 課題
児童の来日期間の長短・日本語理解に応じた学習をすること。

6 成果

- (1) 母語教室が自己実現の場になっている。
(新渡日の児童たちにとっての居場所)
- (2) 日本の環境にスムーズに慣れやすい。
(分からないことを中国語で聞くことができる。)
- (3) 中国語の本が糧になり、心が安定する。
(盛んに本を借りて読んでいる。)
- (4) 異学年の集団で、学習効果が高まる。
(互いにサポートしたりや触発しあったりする。)

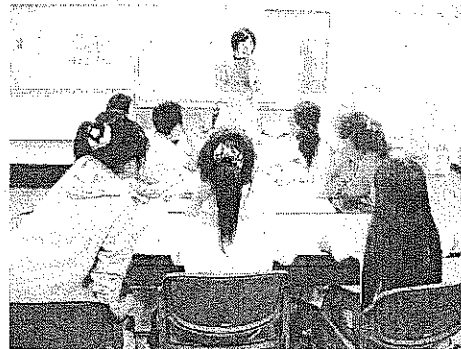
7 課題

- (1) 児童の学年が2～6年にまたがっているため、放課後揃うまでに時間がかかる。
- (2) いかに学習時間を持続させるか。
(話すことができても、書けないことが多い。)
- (3) テンションが高くなりがちである。
(思い切って母語が話せるため。)

参考文献

- 「先生おはようございます。老子早」
(文部科学省)
- 「ニィハオマ、げんき、新しい友だち」
(愛知教育大学、異文化理解ハンドブック)
- 「君にもできる国際交流 ① 中国」
(偕成社)
- 「世界の国々探検図鑑」
(小学館)
- 「世界のくらし ① 中国のくらし」
(ポプラ社)
- 「世界の幼児のうたとあそび」
(神戸市教育委員会)
- 「中国語会話決まり文句 600」
(語研)
- 「学習漫画、中国の歴史 1～10」
(集英社)
- 「外国人児童生徒用日本語テキスト、
たのしいがっこう、中国語」
(東京都教育委員会)
- 「小さなふね、小学語文、朗読文選」
(白帝社)
- 「海底二万里」
(北京燕山出版社)
- 「小笑話」
(漢洲文化)
- 「愛看笑話」
(漢洲文化)
- 「小迷語」
(漢洲文化)

- 「超越金頭腦」
(登福出版社)
- 「驚異伝記」
(登福出版社)
- 「怪人怪事」
(登福出版社)
- 「半夜鬼敲門」
(登福出版社)
- 「三国演技」
(北京出版社)
- 「水滸伝」
(北京出版社)
- 「老夫子」
(上硯出版)
- 「中国笑話・迷語 50 選」
(中華書店)
- 「小王子」
(天津教育出版)
- 「西遊記」
(北京出版社)
- 「好小子、童年故事」
(明天出版社)
- 「小学生、新作文」
(陝西師範大学出版社)
- 「四個半朋友」
(陝西師範大学出版社)
- 「小学生、新作文」
(二十一世紀出版社)
- 「一片葉子落下来」
(南海出版公司)
- 「我的中文小故事」
(北京大学出版社)
- 「兒童英漢百科図解詞典」
(外語教学与研究出版社)
- 「阿童木經典故事書【ピンイン付】」
(人民郵電出版社)
- 「漢語樂園活動手冊」
(北京語言大学出版社)



平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 神戸市立山の手小学校

- 1 支援言語： 中国語
- 2 対象外国人児童生徒の状況
 - (1) 1年生1人、中国語が少し話せる。ピンインがわからなかった。
 - (2) 2年生1人、中国語が話せる。ピンインがわかる。
 - (3) 3年生1人、中国語が話せる。短文も書ける。
 - (4) 6年生3人、中国語を聞いて、話せる。作文力・読解力ともに弱い。
- 3 事業のねらい

1年、2年生の時に渡日した児童は、日本語で話し、日本語で思考する。日常会話程度の母語を話したり聞いたりすることはできるが、文章の読み書きができない。そして、中国の文化も知らない。その子たちが読み書きもでき、母国の文化もわかるように、ピンイン⇒単語・漢字⇒文句の順で教えている。

3年生、6年生の場合は、日常生活において、日本語より中国語のほうがよく使われている。しかし、毎日日本語を勉強しているうちに、まだ完全に習得していない母語を忘れてたり、日本語と中国語を混同して使ったりすることが多い。そこで、彼らが母語を忘れないよう、また日本語と混同しないように、漢字の意味と書き方を注意しながら、読み書きを中心に教えている。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学 期	ピンイン 単韻母 と声母 (1年生)	単韻母と声母の 「b p a i f d t n l g k h」を習 得させる。	ピンインカードを使いなが ら音・形・組み合わせについ て教える。組み合わせる際、 できた簡単な漢字を教える。	4
	ピンイン 漢字	ピンインの知識 を整理し、より印	短文にピンインを付けて、読 ませる。新しい漢字や単語を	4

	短文 (2年生)	象を深める。新しい漢字が読め、書ける。短文の内容がわかる。	教える。文の内容が理解でき るかどうかをチェックする。 また、もし自分が文中の人物 だったらどうするのかなどの 質問を通して考えさせる。	
	四字熟語 作文 (6年生)	熟語で人の表情、感情、動作などを表す。よく作文で使われる熟語がわかる。作文ができる。	字形⇒読み方⇒意味⇒用法 の順で熟語を教える。文を作 らせる。書き取りをする。 テーマを与えて作文させる。	8
	2 学 期	ピンイン 声母と 複韻母 (1年生)	声母の「j q x z c s zh ch sh r y w」と複韻母を 習得させる。	ピンインカードを使いなが ら、音・形・組み合わせにつ いて教える。組み合わせる 際、できた簡単な漢字を教え る。特別や複雑な組み合わせ を繰り返して練習させる。
	漢字 作文 (2年生)	より多い漢字の 読み書きができ る。簡単な文が書 ける。	新しい漢字や単語を教える。 あることについて、考えや感 想を言わせる。テーマを与 え、短い文を書かせる。	10
	教科書の 本文につ いて作文 (6年生)	文を読んで、その 内容、作者の意図 などがわかる。新 しい漢字・漢語の 読み書きができ る。作文のレベル アップ。	中国の6年生の教科書から本 文を選んで、読ませる。新し い漢字・漢語を教える。本文 の内容を自分の言葉でまと めて言わせる。文に用いられ る修飾の方法を教えて、同じ ように使えるかどうか、 作文を書かせたりする。	10
3 学 期	漢字短文 (1年生)	ピンインを復習 しながら、短文を 読ませる。	短文にピンインを付けて読 ませ、全部理解できなくても わかったことを言わせる。新 しい漢字や単語を教える。	6
	漢字 詩・短文 作文 (2年生)	より多い漢字の 読み書きができ る。流暢に文を書 ける。短い詩、い	詩・短文にピンインを付け て、読ませる。新しい漢字や 単語を教える。詩に出てきた 古代中国語について説明す	6

	わゆる「船句」が読める。	る(理解できたらいい。用法までは要求しない。)テーマを与え、作文させる。	
教科書の本文について	文を読んで、その内容がわかる。新しい漢字・漢語の読み書きができる。作文ができる。	中国の3年生の教科書から本文を選んで、読ませる。新しい漢字・漢語を教える。本文の内容を自分の言葉でまとめて言わせる。テーマを与え、作文させる。	8
教科書の本文について	文を読んで、その内容、作者の意図などがわかる。新しい漢字・漢語の読み書きができる。日本語の漢字・漢語と区別できる。より多い熟語ができる。作文のレベルアップ。	中国の6年生の教科書から本文を選んで読ませる。新しい漢字・漢語を教える。本文に出てきた中国語と日本語の漢字・漢語との違いを教える。本文に出てきた「関連詞」の用法を教えて、作文させる。本文の内容を自分の言葉でまとめて言わせる。文に用いられる修飾の方法を教え、同じように使えるかどうか作文を書かせたりする。	6

5 母語教育支援事例

ア 単元

韻母と声母の組み合わせ

イ 指導目標

[u] と声母と組み合わせる時、上の2点を書くかどうかについてできるように。

ウ 指導内容・活動例

声母 [b] [p] [m] [f] [j] [q] [x] [y] を使う。ピンインカードを使って、子どもに [u] と [b] [p] [m] [f] を組み合わせさせる。例: [b] + [u] ⇒ [bu] ピンインカードを使って、[u] と [j] [q] [x] [y] との組み合わせを子どもに見せて、違いを気付かせる。例: [j] + [u] ⇒ [ju] 子どもに [u] の組み合わせをやらせる。いくつかの単語をピンインカードで表せる。

例: 魚 [y] + [ü] = [yü]

不 [b] + [u] = [bu]

規則を教える。(小ü 小ü 有礼貌, 见到 j, q, x, y 就脱帽。) 指導・支援

で留意した点: 子どもにきびしい規則や難しい音声のことを教えないほうがいい。子どもが理解できないからだ。しかし、子どもが音でわかるので、なぜ [u] に見えるが、[ü] なのかについては、子どもに発音させてみたら、発音が変わったということが子どもに実感させた。

エ 成果

[ü] と声母と組み合わせる時、上の2点を書くかどうかについてができた。

6 成果

- (1) 1年生: ピンインが全部できるようになった。簡単な漢字の読み書きもできた。
- (2) 2年生: 短文が読めるようになった。漢字の読み書きが上手になってきた。中国事情も少しわかるようになった。
- (3) 3年生: 文を読んで、自分でまとめることができるようになって、より多い漢字の読み書きができた。

クラスでは緊張してほとんど言葉を発しないが、母語教室では母語でわからないことや心配することなどを話してくれて、精神的ではリラックスすることができると思う。それに、話してくれたことも今後の日本語学習指導に役に立つ。

- (4) 6年生: 熟語がある程度わかるようになった。日本語の漢字と中国語の漢字を混用することが少なくなっていた。

7 課題

- (1) 個々生徒の学習状況に応じて、教授内容を選定するなどについてより検討すべき。
- (2) 同じ教室で同時に違う学習レベルの生徒を教えるのが難しいが、どのように教授内容を調整すれば、時間差をうまく利用して、同時に生徒を教えるのかについてより考える必要がある。

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 神戸市立真陽小学校

1 支援言語： ベトナム語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 児童は日本語中心の生活を送る子ども、学校では日本語、家ではベトナム語と2つの言語を使い分けて生活している子ども、日本語の習得が十分でなく、支援が必要な子どもと様々である
- (2) 1年生では、ひらがなの習得が日本人の子どもたちより遅かったり、自分の気持ちを言葉にしたりするのが苦手な子どもが多い
- (3) 高学年では、日常の会話については不自由なく使えるが、学習言語の習得は十分でなく、内容が難しくなると、学習についていけなくなる児童もいる

3 事業のねらい

- (1) ベトナム語で簡単なあいさつや会話ができる
- (2) ベトナム語での文字や単語の読み書きができ、日本語と比べることができるようになる
- (3) ベトナム語の歌や劇、遊びなどに興味をもち、進んでやってみようとする
- (4) ベトナムの文化を誇りに思うことができる

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	自己紹介カードを作る。	自分の名前や好きなものをベトナム語で書くことができる	自分の本名を知り、ベトナム語で書く 自分の好きなものの名前をベトナム語で書く	2
	ベトナムの言葉を覚えよう①	簡単なベトナム語の文や単語を書いたり話したりできる	テキストに沿って、ベトナム語で話したり、書いたりする	12
	ベトナムの文化を知ろう①(夏休み)	ベトナムの文化を調べることができる	「バインセオ」・「シントー」について調べ、自分たちで作る、食べる	6
2 学期	ベトナムの言葉を覚えよう②	簡単なベトナム語の文や単語を書いたり話したりできる	テキストに沿って、ベトナム語で話したり、書いたりする	12
	ベトナムの文化を知ろう②	「中秋」のお祭りについて調べ、みんなで祝うことができる	「中秋」に関係のある物のベトナム語を知る ちょうちんを作り、みんなで「中秋」を祝う	6
	ベトナムの文化を知ろう③(冬休み)	ベトナムの文化を調べ、日本の文化との違いを知る	「フォー」について調べ、自分たちで作る、食べる	4
3 学期	ベトナムの文化を知ろう④	ベトナムの文化を調べることができる	獅子舞(ムーラン)や太鼓のおどり(チョンコム)を知り、自分たちで演じる	12
	ベトナムの言葉を覚えよう③	簡単なベトナム語の文や単語を書いたり話したりできる	テキストに沿って、ベトナム語で話したり、書いたりする	4
	お別れ会をしよう	6年生を送る会を計画し、実行することができる	寄せ書きやプレゼントを作ったり、6年生に向けた言葉を練習し言ったりする	6

5 母語教育支援事例(特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例)

(1) 事例1

ア 単元 ベトナム語の言葉を覚えよう

イ 指導目標 簡単なベトナム語の文や単語を書いたり話したりできる

ウ 指導内容・活動例

- ① テキストに沿って、文字や単語、文を練習する
- ② 覚えた単語をカルタやゲームを使って確認する

エ 指導・支援で留意した点

・カルタを使った指導

カルタ取りは子どもたちの好きな学習で、低学年から高学年まで一緒に楽しく学習を進めることができる。ベトナム語の得意な子は、取り札を読むこともできる。また、カルタを日本語で読むことで、日本語とベトナム語の違いに気付くこともできる

・ゲームをつかった指導

ツイスターゲームをベトナム語で行う。色や左右のベトナム語理解したり、話したりする学習に役立つ

オ 成果

・ベトナム語を書くことはできても、話すことに抵抗がある子どもが多い。しかし、カルタ取りではベトナム語の単語を自然に話すことができている

・日本語とベトナム語を比べながら学習することにより、日本語の理解が深まった

カ 課題

・日常よく使う言葉の学習はできたが、学習言語についてまで広げることはできなかった。学習言語についてのカルタを作ることにより、ベトナム語や日本語の理解がより一層深まると考えられる

・ゲームは楽しんでするが、書いたり読んだりする学習では、難しいので学習が進まず、ゲームとのバランスを考える必要がある

(1) 事例2

ア 単元 ベトナムの文化を知ろう

イ 指導目標 ベトナムの文化を調べることができる

ウ 指導内容・活動例

- ①ベトナムの旧正月の様子を知る
- ②旧正月に踊る「ムーラン」について調べる
- ③「ムーラン」などを演じ、コリアン・ベトナムフェスティバルで発表する

エ 指導・支援で留意した点

・低学年の指導

低学年は、獅子舞を演じることは難しい。そこで、「Trong Com」という曲に合った振り付けを教えていただき踊ることにした

・高学年の指導

獅子舞を踊るときの楽器の演奏について、太鼓が得意な保護者に来ていただき、直接指導をしていただいた。また、獅子舞の動きも、ビデオなどを使い本物の動きを知り、それに近づけるように練習をした

オ 成果

- ・「獅子舞」は、本校の“名物”になりつつある。子どもたちの中にも「自分の国の文化」として自信をもって演じることができるようになってきた
- ・保護者の協力で、楽器の演奏や獅子舞の動きなどがより本格的になってきた
- ・低学年も新しい踊りに意欲的に取り組めた。フェスティバルにはたくさんの保護者が見に来ていた

カ 課題

・子どもたちにとって、自分の国の誇れる文化に触れる大切な学習であるが、練習や指導の時間が十分にとれなかった。また、指導者の確保も大変である



6 成果

- (1) 母語や日本語に対する関心が高まり、ベトナム語を自分の国の言葉として大切にしようとする子どもが多くなってきた。また、日本語をもっと詳しく学習したいという意欲が見られるようになってきた
- (2) 日本語とベトナム語の両方の学習ができた。日本に来て間もない子どもにとっては、母語を使った学習をとっても楽しみにしており、その中で日本語を習得することができている。また、日本生まれの子どもにとっては、ベトナム語を読んだり書いたりする貴重な時間となっている
- (3) 言葉の学習だけでなく、ベトナムの文化に触れる学習を進めることで、子どもたちの中に、自分の国の文化を誇る気持ちが芽生えつつある
- (4) 今年度も、「長田七夕まつり」から出演依頼が来た。(雨天のためまつりは中止だったが…)この活動は、地域にも認められつつある

7 課題

- (1) 子どもたち一人一人の母語や日本語の理解度が違い、また、参加人数も多いため、教材選びや、学習内容の選択がととても難しい。母語と日本語の両方が学習できる教材を開発しなければならない
- (2) 本事業は、課外に行うことを前提としているが、学校行事やスポーツ活動との兼ね合いが難しく、高学年になるほど参加しにくい状況がある
- (3) 講師との打合せの時間がとりにくく、メールなどで連絡を取りながら学習内容の確認を行った。打合せの時間確保が必要である
- (4) 成果にもあるように、この事業は学校や保護者のみならず、地域にも認められてきている。また、子どもたちの学習を支援しようとする保護者や関係機関の方も増えてきた。この事業を継続、深化させていく必要がある



平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 神戸市立神陵台小学校

1 支援言語：中国語

2 対象外国人児童生徒の状況

(1) 現在本校に在籍している外国人児童は 26 名で、全員が中国籍であり、その児童のほとんどが残留孤児 3 世 4 世である。その多くは親の代に祖父母や両親を頼って渡日した家庭が多く、親の世代では、日本語を話せない家庭が大半である。児童について、反対に子どもたちは日本語で親に話しかけることが多い。したがって家庭でのコミュニケーションが成り立ち難いというジレンマがあり、親との会話も少なくなりがちである。

子どもたちの日本語習得は驚くほど速く、日常会話においては、渡日 1 年でほぼスムーズなアクセントで話せるようになる。ただ、学習言語の習得については援助がなくては理解が困難となるのが現状である。

(2) 地域では、文化の違いに高い理解を示される方がいる一方で、知識や情報の不足から誤解をもって見られることもあり、文化や生活習慣の違いから微妙なニュアンスが伝わらずトラブルに発展することもある。学校としては自分の思いを日本語で伝える力を持たせると同時に中国語も自在に使える子どもを育てることによって、子どもたちの自尊感情を高めていきたいと考えている。長年の取組によって、小学生の中にも両言語を自在に使える児童も出てきており、卒業生の中には高校進学にあたって国際関係の学科のある高校を志望する生徒も年々増えてきている

3 事業のねらい

- (1) 中国語の母語教室の活動に、楽しく積極的に参加し、母国(中国)の言葉や文化に関心をもつ。
- (2) 中国語と日本語とで、生活や学習に必要な単語やフレーズを習得し、活用することができる。
- (3) 母語教室で学んだことを家庭でのコミュニケーションに生かすことができる。
- (4) 自信をもって、集団活動へ(話し合い・授業・遊び)参加することができる。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	中国語であいさつをしよう	中国語であいさつや自己紹介ができる。	簡単なあいさつを覚え、日常的に使う。	6
	中国語のリズムを覚えよう	中国語の基本的な発音ができる。	学校生活の中の身近なもの名前を正しい発音で言う。	8
	中国の文字が読めるかな(1)	中国の文字と日本の漢字を比べ、違いを知る。	中国の文字と同じ意味の日本の漢字とを調べ、違いを見つける。	8
2 学期	中国の文字が読めるかな(2)	中国の文字を正しく発音する。	ピンインを学習し、正確な発音をする。	8
	中国語の歌を歌おう	中国語の歌を楽しく歌う。	中国の歌の意味を理解しながら歌う。	8
	中国の文化を知ろう(1) 「食べ物」	中国と日本との食べ物の違いを知り、興味をもつ。	母国の食べ物について調べ、その特徴、日本との違いに気づく。	8
3 学期	中国の文化を知ろう(2) 「行事・遊び」	中国の「お祭り・行事・遊び・ゲーム」等に関心をもつ。	中国ではどんなお祭りや行事、遊びやゲームがあるのかを調べる。	8
	聞いてみよう 教えてあげよう	中国語も使って、質問したり、応答したりすることができる。	自分の大切にしているものや好きなことについて中国語で話す。	8
	中国語で話そう	中国語の文を理解し、表現できる。	中国語を使ったゲームをする。	8

5 母語教育支援事例(特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例)

(1) 事例 1

ア 単元

中国語であいさつをしよう。

イ 指導目標

中国語の簡単なあいさつや自己紹介の仕方などを覚え、日常的な暮らしに役立てることができる。

ウ 指導内容・活動例

- ① 日常生活の中のあいさつをする場面を思い出す。
 - ・起床のとき
 - ・昼間に会ったとき
 - ・帰るとき
- ② あいさつの仕方を知る。
 - ・日本語と中国語の読みを表示する。
 - ・アクセントを意識して発音する。
- ③ 発音の練習をする。
 - ・全員で指導者の発音に続いて発音する。
 - ・各自で発音する。
- ④ 日常場面を設定し、会話形式で練習する。

エ 指導・支援で留意した点

- ① 日常のさまざまな活動場面を想起させるため、簡単な劇をさせた。
- ② ピンインを確実に覚えるため、一人一人に見方の表を準備した。
- ③ 感覚で覚えられるように繰り返し練習させた。
- ④ 生活と結び付けさせ、日常化を促すために場面設定をし、会話形式を取り入れた。
- ⑤ 常に日本語での言い方(声の調子や表情)で雰囲気をつえさせてから言わせた。

オ 成果

- ① 興味を持ち、問いかけによく答えた。
- ② 母語と日本語を習得することに意欲が見られた。
- ③ まわりの子どもたちが興味をもつことにより、いろいろな友達との関係が深まった。
- ④ 中国の文化〔生活〕に対して、興味・関心をもつことができた。
- ⑤ 家庭でのコミュニケーションの活性化を促すことができた。

カ 課題

- ① 家庭での母語教育(復習)が思うように進んでいない。
- ② 中国滞在年数や学年の違いによって中国語の習得レベルが違うので、指導がまちまちになる。

(2) 事例2

ア 単元

中国の文字が読めるかな(4・5・6年生)

イ 指導目標

運動会のアナウンス原稿を読みアナウンスすることで、中国語に対する関心を高めるとともに自信と誇りをもつ。

ウ 指導内容・活動例

- ① 中国語に翻訳した放送原稿に読みを書く。
- ② アナウンスの発音や強弱、抑揚について個々に指導を受ける。
- ③ 声に出して、本番と同じようにアナウンスをする。

*②～③の練習を繰り返す。

- ④ 暗記をする。

エ 指導・支援で留意した点

- ① 聞き手に伝わるよう、発音については特に細かく意識させるようにした。
- ② 個人練習用テープを持たせ、発音を繰り返し、自分でチェックできるようにした。
- ③ マイクを使用し、内容が聞き手に伝わるか、互いに聞き合う場をもうけた。

オ 成果

- ① より正しい発音を身につけた。
- ② 言葉の聞き分け能力を高めた。
- ③ 実践を通して、地域の人々の賞賛を受けて、自信と誇りをもつことができた。

カ 課題

- ① 練習時間の確保が難しい。
- ② 指導者の増員による練習内容の充実が望まれる。

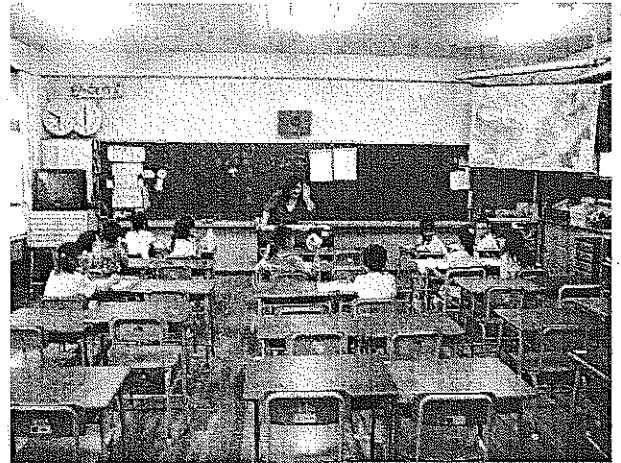
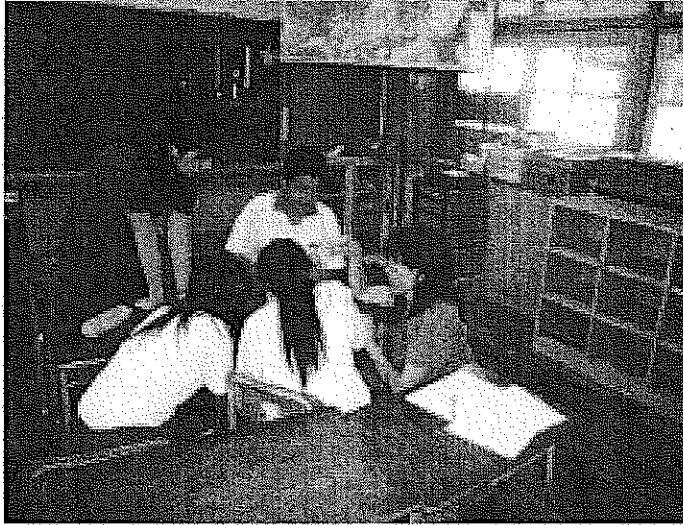
6 成果

- (1) 中国語と日本語を使った学習を通して、両方の言語に対する理解が深まってきている。片言で日本語を話す児童はなく、普段の生活において友達や先生と自然な会話がなされている。
- (2) 外国人・帰国児童教室を設置し、そこで過ごすことが、児童の情緒の安定につながっている。また、授業時間や休み時間を問わず、児童の精神的安定が保たれた。
- (3) 運動会や音楽会などの学校行事において外国人帰国児童が中国語による紹介アナウンスをするなど活躍する場ももてた。このことが学校生活に対する意欲を高め、自尊心を高めることができた。また、地域に住む中国からの帰国者の方々が学校へ来ることが楽しみとなるよい機会となった。

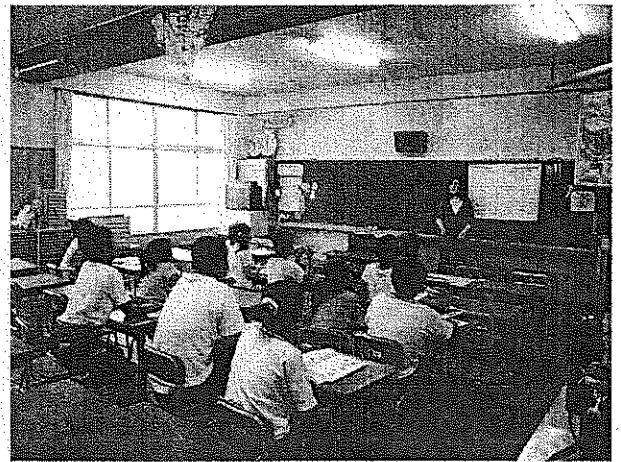
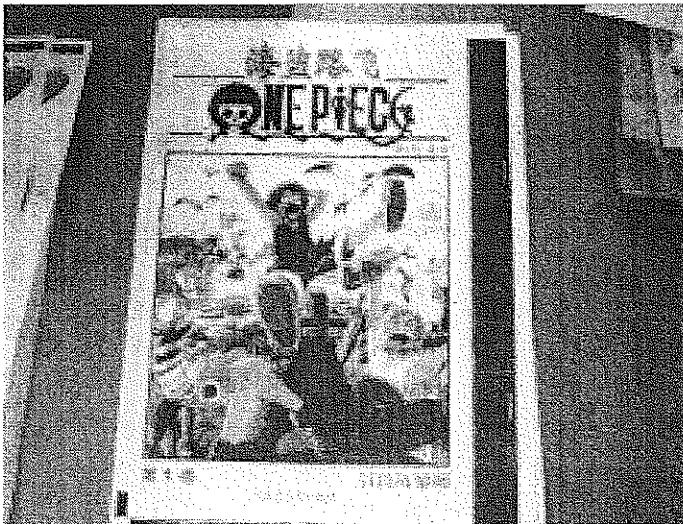
7 課題

- (1) 生活言語を順調に習得しているが、自分の気持ちを短い言葉でしか言えず、正確に伝えられずに誤解を生むことがある。これからも「聞く」「話す」学習を積み上げていくことが必要である。また、「読む」「書く」の領域まで個に応じた言語の習得を図っていきたい。特に高学年では、「書く」要素を多く取り入れた活動を充実していきたい。
- (2) 各学年の学習活動や内容、学校や学年の行事に沿った学習言語の習得を図るため、子どもたちの関心や意欲を高める教材の工夫や開発を進めなければならない。
- (3) 運動会や音楽会での中国語によるプログラム紹介〔アナウンス〕では、準備・練習の期間が短いため、活動をより計画的に要領よく進める工夫が求められる。

(1) 運動会アナウンス練習



(2) 漫画「ワンピース中国語版」



(3) 中国語練習教材



平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 尼崎市立園田北小学校

1 支援言語：ベトナム語

2 対象外国人児童生徒の状況

(1) 小学生は5人で、中学生は5人が参加している教室である。1人を除いて、どの子も日本語については、日常の生活言語をほぼ理解しており、聞く、話す等が支障なくできているが、学習言語の理解が不十分である。

(2) ほとんどが日本で生まれた子どもたちばかりであり、取り巻く環境は、ベトナム人としての自覚や誇りを育むことにとって妨げとなっている。

(3) 10人のうち、3人はベトナム語の会話ができるが、残りの児童生徒は、ベトナム語での会話ができない。保護者は日本語力が低いため、その児童生徒と会話が十分にできず、親子のコミュニケーションが円滑であるとはいえない。

3 事業のねらい

(1) 発達段階に応じた母語指導方法を創意工夫し、児童生徒の母語習得の円滑化を図る。

(2) 母語によるコミュニケーション力を身につけさせることにより、ベトナム人としての自覚や誇りを育成する。

(3) 母語や母文化の学習への意欲を高めるために、体験的な活動を積極的に取り入れて、ベトナム人としてのアイデンティティの確立を図る。

(4) 計算・漢字・音読の繰り返し練習を通して、基礎学力の向上を図る。

(5) 多文化共生の心を育成するために、ベトナム文化と日本文化について学習する。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1学期	ベトナム語であいさつをしよう。	ベトナム語であいさつできる。	ベトナム語のあいさつを覚える。	1
	ベトナム語のリズムを覚えよう。	ベトナム語の基本的な発音やリズムをまねることができる。	身近な物の名前を、発音を正しく、まねながら言う。	3
	ベトナム語の文字を読めるかな？	ベトナム語の文字を知り、正確に発音ができる。	ベトナム語の文字とひらがなを比べながら、正確な発音をまねる。	5
2学期	ベトナム語の歌を歌おう。	ベトナム語の歌を歌い、楽しむことができる。	簡単なベトナム語の歌を歌う。	4
	ベトナム語の単語を知ろう。	身近なベトナム語の単語を使うことができる。	身近なベトナム語の単語を覚える。	8
	母国の遊びを知ろう。	母国の伝統的な遊びに関心を持つ。	母国の伝統的な遊びについて調べたり、体験したりする。	4
3学期	ベトナム語で何というのかな？	簡単なベトナム語の文を聞いて理解することができる。	簡単なベトナム語で指示された動作をする。	8
	ベトナム語で話そう。	簡単なベトナム語文を理解し、表現できる。	ベトナム語を使ったゲームをする。	8
	動物について知ろう。	ベトナム語での動物の名前や鳴き声に興味を持つことができる。	ベトナム語での動物の名前や鳴き声を調べたり、実際に聞いたりする。	8

5 母語教育支援事例(特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例)

(1) 事例1

ア 単元

ベトナム語の文字が読めるかな？

イ 指導目標

ベトナム語の文字を知り、正確に発音できる。

ウ 指導内容・活動例

・「絵カード作り」

ベトナム語の文字とひらがなを比べながら、正確な発音をまねる。

エ 指導・支援で留意した点

・ 身近な食べ物、動物、道具などの単語を絵にすることで単語のイメージをもたせた。

・ はじめて単語を書くときは、うすく書いた上からなぞらせた。

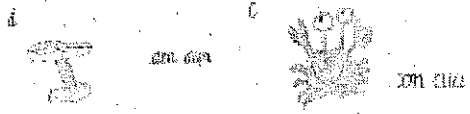
オ 成果

・ 絵と発音と文字を組み合わせることで、さまざまな習得レベルの児童が「絵カード作り」の学習に取り組むことができた。

・ 絵を描くことによって、単語のイメージをもち、ベトナム語の文字に対する関心を高めることができた。

カ 課題

- ・ 絵を丁寧に描くため、活動に時間がかかった。
- ・ 1年生は「字を書く」ことだけでも個人差があり、ベトナム語の文字を書くことに最初は取りかかりにくかった。



(2) 事例2

ア 単元

ベトナム語で話そう。

イ 指導目標

簡単なベトナム語文を理解し、表現できる。

ウ 指導内容・活動例

「創作絵本作り」

自分でお話をつくり、簡単なベトナム語を使って、絵本をつくる。

- ① 絵を描き、お話のイメージをもつ。
- ② 自分でお話をつくる。
- ③ 絵を描き、ベトナム語の表現を書き込む。
- ④ 正しい発音で練習する。

エ 指導・支援で留意した点

- ・ 正しいベトナム語が習得できるように発音を練習させた。
- ・ 日本語を書き加えることで、表現を理解させることに留意した。

オ 成果

- ・ 絵本作りの活動が楽しく、学習意欲が高まり、さらに児童が無理なくベトナム語に親しむことができた。
- ・ 絵本を他の人に見せることにより、自身をもたせることができた。

カ 課題

- ・ 表現を理解することに留意したが、ベトナム語の習得が十分でない子どもには、難しかった。
- ・ 制作に時間がかかった。

6 成果

- (1) 「聞く」「話す」「書く」の学習活動において、活動例にあげた「絵カード作り」「創作絵本作り」を通して、母語に対する学習意欲が高まり、楽しく母語を習得することができた。
- (2) 日本で生まれた児童にとって、母語や母国の文化に触れることで、母国に対する理解を深めていくことができた。
- (3) 継続的に学習することで、語彙数を増やすことができた。
- (4) 渡日もない児童は、母語から日本語を覚えることができ、日本語の習得に成果があった。また、母語を話すことができることから、心の安定を図ることができた。

7 課題

- (1) 児童により現在の母語の取得に違いがあり、教材づくりに工夫が必要である。また、成果も個人差がある。
- (2) 異学年または個人差のある児童に対して、母語指導者一人で、一斉に学習を進めることは困難である。
- (3) ベトナム語学習への意欲を高めるためには、家庭との連携が不可欠である。
- (4) 今後、単語を覚える学習から表現や他の学習活動に広げていかなければならない。

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 西宮市立神原小学校

1 支援言語：インドネシア語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 校内支援対象児童生徒数 5人 校外1人 計6人
- (2) 保護者の勤務の都合で、渡日時期(年齢)や在籍期間が多様で、日本語・母語ともに習得状況にかなりの差がある。渡日半年の姉弟がいる。
- (3) 幼少時に渡日した児童は、日本語で会話し、学習言語の習得もある程度進んでいるが、母語を殆ど忘れてしまっている。母語で書かれた文を読むことが出来ず、母文化についても殆ど知らない。
また学習言語がかなり身につけてきた児童がいる一方、母語で簡単な日常会話は出来ても、文や言葉として正しく書くことが出来ない児童がいる。

3 事業のねらい

- (1) インドネシア語を学ぶ活動に楽しく積極的に参加する態度を身に付ける。
- (2) インドネシア語の基本的な単語やフレーズで表現することができる。
- (3) 母語や母文化に関心を持ち、進んで知ったり調べたりしようとする。
- (4) 日本語とインドネシア語双方を置き換える学習を通して、学習言語の習得を図る。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1学期	インドネシア語であいさつしよう	インドネシア語であいさつできる。	インドネシア語で自分の名前を言ったり、趣味や家族の紹介などをしたりする。	1
	インドネシア語で話そう	インドネシア語で簡単な会話ができる。	学校生活や日常生活の中での出来事を、発音に気を付けながら会話する。	3
	インドネシア語を読もう、書こう	インドネシア語が読め、正しく書くことができる。	アルファベットカードから単語を作ったり、教科書や本などを見ながら、正しく発音したり、書いたりする。	5
2学期	インドネシアの歌や楽器で楽しもう	インドネシアの歌や楽器で楽しむことができる。	インドネシアの歌や伝統的な楽器について理解し、演奏する。	4
	母国の文化を知ろう	母国の食べ物・習慣・遊び・行事について知る。	母国の文化について知り、詳しく調べる。	8
	インドネシア語で何と云うのかな？	簡単な事柄や言葉をインドネシア語に置き換えることができる。	カルタやカードを作って、ゲームをする。	4
3学期	文化の違いを知ろう	母国と日本の共通点や違いを知り、興味を持つことができる。	母国と日本の学校生活や行事、習慣などの違いを学習する。	2
	自分の考えを話そう	簡単なインドネシア語で話したり書いたりできる。	決められたテーマについて、自分の考えをインドネシア語で話したり書いたりする。	3
	インドネシア語で何と云うのかな？	簡単な物語文を理解し、表現できる。	日本語で学習した物語などをインドネシア語で表現する。	3

5 母語教育支援事例(特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例)

(1) 事例1

ア 単元

「インドネシア語で何と云うのかな？」

イ 指導目標

簡単な事柄や言葉をインドネシア語に置き換えたり、教科において日本語に置き換えたりして、学習言語の習得を図る。

ウ 指導内容・活動例

- ・ 母国の算数の教科書(4年生)を使って、色々な文章題や図形の問題に取り組む。
- ・ 単語一覧表(母語⇄日本語)のプリントを使って、簡単な事柄や言葉を覚える。
- ・ 語句カードやカルタを作って、簡単な表現を定着させる。

エ 指導・支援で留意した点

在籍学級で学習した事の定着が図れることと、母語のレベルを意識して、それぞれの児童に適した教材を選んだり、作ったりした。

オ 成果

- ・ 母語で書かれた文章に触れる機会が少ないので、問題を解くことで自然と読んで考えることができた。
- ・ カードやカルタを自分たちで作ることで、楽しみながら学習に取り組むことができた。
- ・ 母語を介在させることによって、言語や学習内容の定着が進んだ。

カ 課題

- ・ 知らない母語やわからない事は辞書を使ったり、互いに教え合ったりして積極的に調べているが、子どもに適した具体的な例文のある辞書が日本では手に入らない。
- ・ 個々の母語および日本語力や、学習習得度に差があるので、個別の複数対応が必要である。



語句カードやカルタ作り



教科における学習内容の確認

(2) 事例 2

ア 単元

母語や母文化を知ろう。調べて発表しよう。

イ 指導目標

母国の習慣や行事について知り、詳しく調べて発表できる。

ウ 指導内容・活動例

テーマを決めて母語や母文化について、調べてまとめる。

- ・ あいさつや簡単な言葉を紹介する。
- ・ 学習した物語文を訳して、音読する。
- ・ インドネシアと日本の学校生活の違いをまとめる。
- ・ レバラン(断食明けの大祭)について、由来や内容をまとめる。
- ・ 民族衣装について調べる。
- ・ 調べてわかった事を表にまとめ、写真などを使いながら全校生に向けて発表し、交流する。

エ 指導・支援で留意した点

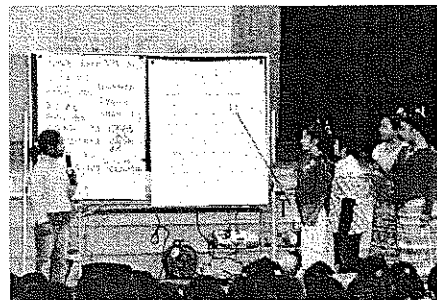
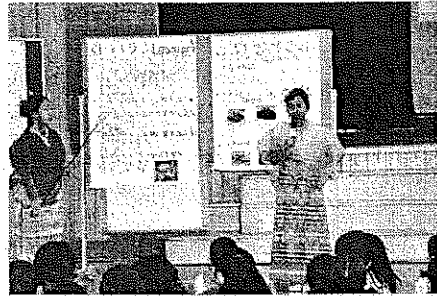
児童の発達段階や日本語力に合わせて、調べるテーマを考えさせた。渡日間もない児童は、簡単な学習言語についてまとめたり、母国の学校を紹介したりさせた。高学年は、行事の由来や習慣について出来るだけ詳しく調べるように支援した。また一方的に発信するだけでなく、他の児童と一緒に体験できる場を設けた。

オ 成果

発表という目的を持って学習することで、言語を習得するだけでなく、調べたりまとめたりする力もついた。行事の由来や意味について殆ど知らない児童もいたが、調べたり親に聞いたことで、文化についてあらためて考えることができた。また全校生に向けて発表することで、周りから大きく認められ、自信へと繋がった。

カ 課題

幼少時や低学年で渡日しているので、日常会話程度の母語しか知らなかったり、習慣や文化についてはほとんど知らなかったりする児童が増えている。それらをカバーする情報や資料がより多く必要である。



全校集会でのインドネシア文化発表会

6 成果

- (1) 在籍学級では緊張しているが、母語教室では自分の思いを話すことができ、リラックスして過ごすことが出来た。
- (2) カードやカルタなどを自分たちで作って、ゲームなどを取り入れることで、楽しみながら学習出来るように工夫し、学習意欲を高めた。
- (3) 幼少時に渡日した児童は母語を忘れ、母文化については殆ど知らなかったが、学習を通して興味をもって取り組むようになった。また発表の練習をすることで、正しく発音したり書いたりする力をつけることができた。
- (4) 母語教室での学習内容や母語・母文化について全校生に向けて発表する機会を作り、相互理解を深めた。
- (5) 保護者やインドネシア領事館と連携を取り、資料や楽器提供を受け、文化交流ができた。

7 課題

- (1) 母語の習得レベルに差があるので、みんなが共通して取り組める内容を常に工夫する必要がある。
- (2) 個々の実態に応じた教材を開発し、試行して改良するには指導者、担当者ともに十分な検討時間が必要であるが、その確保が難しい。
- (3) 学校の授業時数が増えると、放課後の開室時間の調整が難しくなる。
- (4) 実施時間や通学における安全面から、校外児童の参加が難しい。
- (5) 指導者の確保。

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 芦屋市立潮見小学校

1 支援言語： スペイン語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 校内支援対象児童生徒数 2人
- (2) 校外支援対象児童生徒数 3人 計 5人
- (3) 状況

渡日後2年から3年を経過する児童が多く、日本語の習得状況はよくなってきている。しかし、家庭への細かい連絡や生活の説明等は、サポーターの力を借りることが多い。日本語での生活が増えてくるとともに、母語を忘れてしまいがちな状況がある。

3 事業のねらい

- (1) 母語教育により、母語の学習を深めるとともに、日本語理解、学習言語の習得につながる支援をする。
- (2) 母国の生活・文化に触れることで、母国に誇りを持つことができるように支援する。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	スペイン語であいさつしよう	スペイン語であいさつができる。	簡単なあいさつを覚え、日常的に使う。	6
	スペイン語のリズムを覚えよう	スペイン語の基本的な発音ができる。	学校生活の中の身近なもの名前を、正しい発音で言う。	6
	ペルーの文字が読めたかな？	スペインの文字と日本の漢字を比べて違いを知り、正確に発音できる。	スペインの文字と日本の漢字を比べながら、正確な発音をまねる。	4
	ペルーのお話を聞こう	講師の語るペルーの話から母国に興味関心を持つ。	講師の話聞きながら、母国について理解を深める。	4
2 学期	スペイン語の歌を歌おう	スペイン語の歌を歌うこと・楽しむことができる。	スペイン語の歌の意味を理解しながら歌う。	8
	食べ物について知ろう	母国と日本の食べ物の違いを知り、興味を持つことができる。	母国の食べ物について調べ、日本との違いについて気づく。	8
	スペイン語で何と云うのかな？	簡単なスペイン語文を聞いて理解することができる。	簡単な動作をスペイン語で聞き取る。	6
3 学期	母国の文化を知ろう	母国のお祭りや行事に興味を持つ。	母国のお祭りや行事について調べる。	6
	聞いてみよう。教えてあげよう	簡単なスペイン語文を使って、質問したり応答したりすることができる。	自分が一番大切にしているものや好きなものについてスペイン語で話をする。	6
	スペイン語で話そう	簡単なスペイン語文を理解し、表現できる。	スペイン語を使ったゲームをする。	6

5 母語教育支援事例（特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例）

(1) 事例 1

ア 単元

ペルーのお話を聞こう

イ 指導目標

ペルーの話聞いて、母国に興味・関心をもつ。

ウ 指導内容・活動例

ペルーの主な特徴を理解する。

- (ア) マチュピチュの遺跡など、有名な古代遺跡が多くあり、たくさんの観光客が訪れる。
- (イ) ジャガイモやトウモロコシの原産地であり、さまざまな食べ方がある。
- (ウ) 家庭料理の紹介
- (エ) 歌や踊りが好きな民族である。

エ 指導・支援で留意した点

幼い時に渡日した児童は、母国について知らないことが多い。そのため、一般的な特徴から知らせる。

オ 成果

自分の生まれた国ペルーについて興味を持って聞き、理解を深めることができた。

カ 課題

児童の発達段階に応じた指導方法や教材等の工夫がもとめられる。

(2) 事例 2

ア 単元

ペルーの歌を歌おう

イ 指導目標

スペイン語の歌を歌い、楽しむ。

ウ 指導内容・活動例

スペイン語の歌の意味を理解しながら歌う。

エ 指導・支援で留意した点

母国の歌を楽しみ、興味を持つことを大切にしている。

オ 成果

- (ア) ペルーの音楽独特のリズムにあわせて身体を動かしながら、楽しむことができた。
- (イ) ペルーの音楽や文化への理解を深めた。

カ 課題

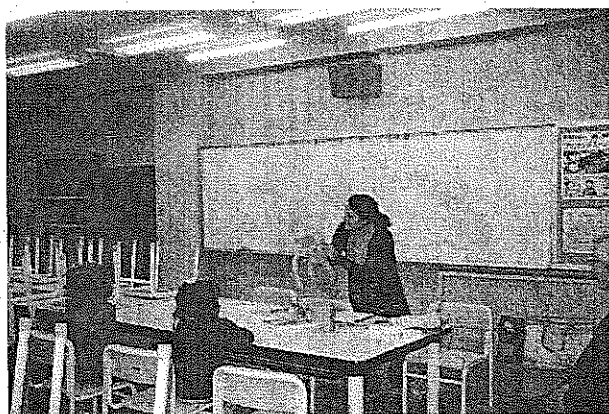
年齢や実態の異なる児童へ一斉に指導する歌を選ぶのは難しい。

6 成果

- (1) 今年度は幼稚園児の参加もあり、異年齢の児童の横のつながりができた。
- (2) 潮見小学校のランチルームを利用することで、校内支援対象児だけでなく、周りの児童にもペルーの文化等に興味を持ってもらうことができた。
また、土曜日には地域の集会所で実施したため、校外支援対象児たちも参加しやすかった。

7 課題

- (1) 母国が同じ人々とともに母語に触れることで、和やかな表情が見られた。これまで、地域の集会所で母語教室を開き、地域との輪をつくってきた。今年度は学校内でも実施したことで、校内の児童にもペルーの文化に興味関心をもたせることができた。
- (2) 教育課程の中で、異文化に触れる機会をつくる必要がある。



新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例

伊丹市立池尻小学校

1 支援言語： 中国語

2 支援外国人児童の状況6名（2年1名、3年1名、4年1名、5年2名、6年1名）

- (1) 対象児童の状況は多様で中国で育って日本へ来た子もいれば、日本で生まれ育った子もいる。
- (2) 日常生活においては、日本語の習得も早く、特に困ってはいない。しかし、学年が進行するにつれて、抽象度の高い学習語彙になると、理解不足になる場合が多い。
- (3) アイデンティティの面では、中国人として誇りをもっている児童もいるが、中には日本名を使っている児童もいる。

3 事業のねらい

- (1) 中国語の活動に興味をもって積極的に参加する。
- (2) 中国語を使って、日常生活の簡単な会話ができる。
- (3) 簡単な中国語の文を聞いて理解することができる。
- (4) 母語の言葉や文化に関心をもつ。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動	時数
1 学 期	中国語で挨拶と自己紹介しよう。	中国語で挨拶と自己紹介ができる。	中国語で自分の名前を言ったり、挨拶をしたりする。	4
	中国語の歌や遊びなどをしよう。 ①	中国語の歌に親しむ。 中国の伝統的な遊びに関心を持つ。	簡単な中国語の歌を歌う。 中国の伝統的な遊びを調べ、体験する。	8
	中国語では、なあに？	中国語の発音記号を知り、正確に発音できる。	中国語の発音記号とひらがなを比べながら、正確な発音をまねる。	6
2 学 期	中国語の単語を知ろう。	身近な中国語の単語を使うことができる。	身近な中国語の単語を覚える。	18
	中国の漢字・日本の漢字？	発音に気をつけながら中国の漢字と日本の漢字の違いを知る。	中国の漢字と日本の漢字の違いを知り、正確に発音する。	8

	食べ物について知ろう。	中国と日本の食べ物の違いを知り、興味を持つことができる。	中国の食べ物について調べたり、作ったりして、日本との違いに気づく	5
3 学 期	中国語の歌や遊びなどをしよう ②	日本の歌（アニメ）を中国語で歌う。 中国の伝統的な遊びに関心をもつ。	日本と中国の歌詞を比べながら楽しんで歌う。	5
	自分の考えを話そう。	簡単な中国語で聞いたり、話したりできる。	決められたテーマについて、自分の考えを中国語で話す。	8
	中国の文化を知ろう。	中国のお祭りや行事に関心をもつ。	中国のお祭りや行事について調べる。	8

5 母語教育支援事例（特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例）

(1) 事例1

ア 単元

「母語の文化（春節）を知る」

イ 指導目標

中国の伝統的な祝祭日について学習し、日本と中国の違いや同じところを理解するとともに、アイデンティティをはぐくむ。

ウ 指導内容・活動

- (1) 春節についての思い出を話し合い、特に飾りものについて調べたり、家の人から教えてもらったりする。
- (2) 春節の飾り（切り絵）を見せて、一緒に作る。

エ 指導・支援で留意した点

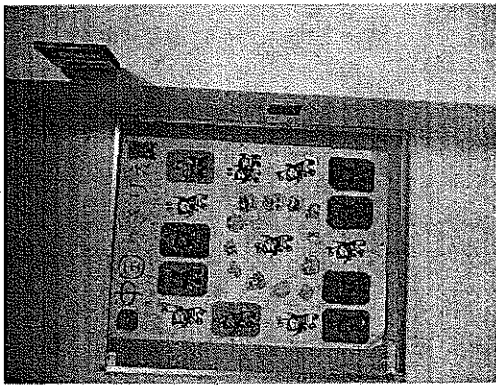
- (1) 春節について、実物を通して、食べ物や遊び物や飾り物やテレビの番組などを思い出させる。
- (2) 相手の話をよく聞くようにする。児童の実態に応じて、切り絵作りを手伝う。

オ 成果

- (1) 母国の伝統的な文化・行事について理解を深めることができた。
- (2) 作った切り絵を校内に掲示することで、日本の子どもたちが異文化を知る機会となった。

カ 課題

児童の興味・関心を引き出すための、実物や資料などが十分ではない。



(2) 事例2

ア 単元

「数の表わし方や仕組みを理解する」

イ 指導目標

数の表わし方や仕組みについて、中国と日本の言い方を比較しながら理解することができる。

ウ 指導内容・活動

- (1) 具体的な数字(四桁や三桁や二桁や一桁の数字)を中国語で言う。
- (2) 四桁や三桁や二桁や一桁という数字の名前を中国語で言う。
- (3) 一の位や十の位などを中国の言い方と比べる。
- (4) 問題を解く。

数字	5	2	9	1
日本	千	百	十	一
中国	千位数	百位数	十位数	个位数

エ 指導・支援で留意した点

- (1) 「1000が6こと100が2こと10が3こと1が1、この数字なんですか」という問題に児童はかなり戸惑っていた。
1000のかたまり、100のかたまりの中から説明した。

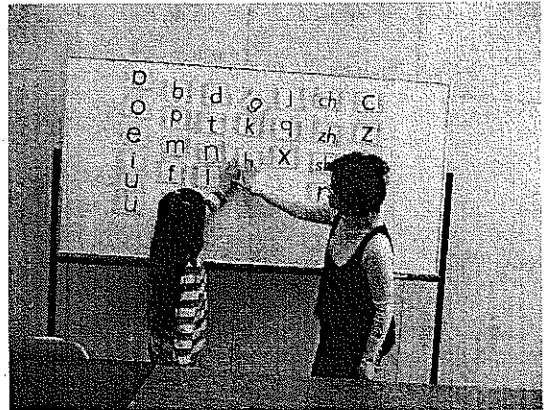
- (2) 中国で習った千位数、百位数、十位数、个位数を復習しながら、日本の言い方と比べた。

オ 成果

数の表し方や仕組みについて、日本と中国の言い方を比較することで少しずつ理解ができた。

カ 課題

1000や100や10や1から数の仕組みの説明について、児童は理解しにくい。



6 成果

- (1) 中国の文化に対して興味をもち、学習をすることができた。
- (2) 母語教室で子どもたちと接する時間を確保し、児童の状況をより把握できた。
- (3) 家庭でのコミュニケーションがいつそう深まった。
- (4) 運動会や音楽会での中国語によるアナウンスにより、帰国・外国人児童の活動の場ができ、母国に対して誇りを持つことができた。学校全体に、異文化を大切にして、共に生きていこうとする意識がより強くなった。

7 課題

- (1) 母語教室の適切な教材・教具の充実。
- (2) 「聞く」「話す」だけでなく、「読む」「書く」力を伸ばす指導の工夫。

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 姫路市立花田小学校

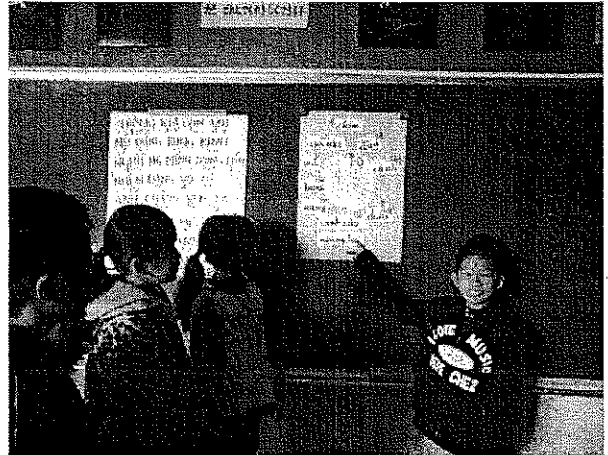
1 支援言語：ベトナム語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 渡日3年未満は6人で、日本生まれの児童が増えてきた。
- (2) ベトナム語での会話はできるが、読み書きはできない児童が多い。
- (3) 親との意思の疎通ができにくくなっている児童がいる。

3 事業のねらい

- (1) ベトナム語の母語教室の活動に参加する態度を身につける。
- (2) ベトナム語の基本的なフレーズで表現することができる。
- (3) 母国の言葉や文化に関心を持ち、積極的に調べようとする。
- (4) 各教科で学習した言葉（学習言語）を、ベトナム語に置き換えることができる。



4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	ベトナム語であいさつしよう。	ベトナム語であいさつができる。	ベトナム語のあいさつを覚える。	6
	家族の呼び方を覚えて書こう。	ベトナム語の基本的な発音ができ、文字が書ける。	家族の呼び方の発音を正しくまねながら言う。	8
	自己紹介をしよう。	簡単な自己紹介の文を作り、書いたり話したりできる。	名前や年齢を正しく発音したり書いたりする。	8
2 学期	体の部分の名前が言えるかな？	体の部分の名前を覚え、使うことができる。	歌に合わせてジェスチャーゲームをする。	8
	果物の名前を覚えよう。	好きな果物の名前を覚え、使うことができる。	好きな果物の名前を言い、その理由を言う。	8
	食べ物の名前を覚えよう。	ベトナムの食べ物の名前を覚えて、使うことができる。	ベトナム語を使って買い物ゲームをする。	8
3 学期	動物の名前を覚えよう。	ベトナム語で動物の名前を覚えて、使うことができる。	ベトナム語を使ったビンゴゲームやベトナム語カルタをする。	8
	建物の名前が言えるかな？	主な建物や施設の名前を覚えて、使うことができる。	建物の名称を正しく発音したり書いたりする。	8
	道順を教えよう。	道順を表す言葉を覚えて、使うことができる。	実際に地図を見ながら案内ゲームをする。	8

5 母語教育支援事例（特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例）

(1) 事例1

ア 単元

果物の名前を覚えよう

イ 指導目標

好きな果物の名前を覚え使うことができる

ウ 指導内容・活動例

子ども同士で順番に質問し、なぜ好きなのかを言うことで、「おいしい」「甘い」「すっぱい」「赤い」「大きい」などの形容詞を覚える。

エ 指導・支援で留意した点

必ず理由を言うことで、形容詞を使う必然性をもたせる。

オ 成果

たくさんの形容詞を使うことができた。

カ 課題

更にたくさんの語彙を使えるような手立てを考える。

(2) 事例2

ア 単元

動物の名前を覚えよう

イ 指導目標

ベトナム語で動物の名前を覚えて、使うことができる。

ウ 指導内容・活動例

ベトナム語を使ったビンゴゲームやベトナム語カルタをする。

エ 指導・支援で留意した点

単なるゲームに終わらず、動物の名前を日本語とベトナム語で書く。

オ 成果

両方の言語で動物の名前を覚えることができた。

カ 課題

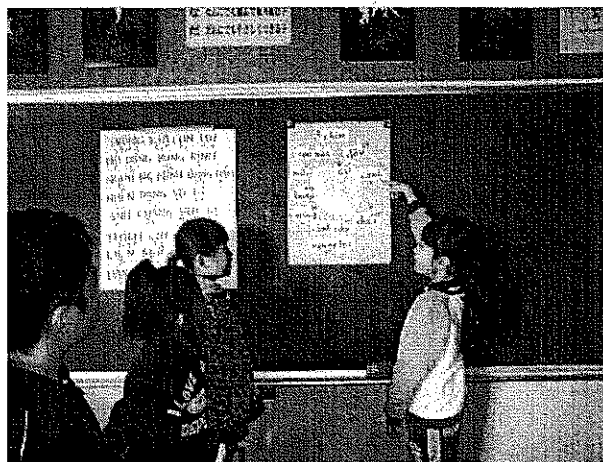
名前だけで終わってしまい、特徴などを説明する時間的な余裕がなかった。

6 成果

- (1) 母語と日本語と両方を使って学習することで両方の言語の語彙を学ぶことができた。
- (2) 母語に親しみ、楽しく学習することができた。
- (3) 母国の文化に関心をもち、積極的に活動することができた。

7 課題

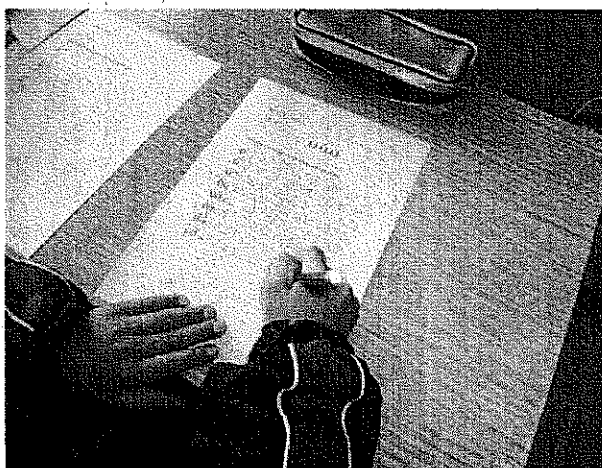
- (1) 個々の語彙量にあわせた指導の工夫
- (2) 日本語、母語両方の力の見極め
- (3) 語彙習得の必然性をどう織り込むか
- (4) 興味・関心をもたせる指導法の工夫



「鳥」に関する単語を発音



ベトナム語カルタ



ベトナム語のアルファベットの練習

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 姫路市立城東小学校

1 支援言語：ベトナム語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 対象児童25名中ベトナム生まれの2人は、母語で会話ができても、母語の読み書きができない。しかし、小学校レベルの学習言語は、母語に置き換えて考えると理解することが出来る。
- (2) 渡日歴が長くなっていくにしたがって、日本語で会話できるようになり、逆に母語を使いこなすことができなくなっている。
- (3) 日本生まれの児童は、簡単な母語は使えても保護者と意思疎通を図ることができるほど母語は使えない。そのため、親子のコミュニケーションが難しくなっている。

3 事業のねらい

- (1) 母語教室の活動に積極的に参加する態度を身につけさせる。
- (2) ベトナム語の基本的な言葉を使えるように、また、ベトナム語で自分の意思が表現できるように支援する。
- (3) ベトナムについて調べ、母語に興味関心を深める活動を増すことで、母国を誇りに思う心を育てる。
- (4) 教科で学習した日本語をベトナム語に、ベトナム語を日本語に置き換える学習を通し、学習言語の習得を図る。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	ベトナム語であいさつしよう。	ベトナム語であいさつができる。	ベトナム語のあいさつを覚える。	4
	ベトナム語のリズムを覚えよう。	ベトナム語の基本的な発音やリズムをまねることができる。	身近な物の名前を、発音を正しくまねながら言う。	6
	ベトナム語が読めるかな？	ベトナム語の文字を知り、正確に発音できる。	ベトナム語の文字を見ながら、正確な発音をまねる。	10
2 学期	ベトナム語の歌を歌おう。	ベトナム語の歌を歌うことができる。	ベトナム語の歌の意味を理解しながら歌う。	6
	ベトナム語の単語を知ろう。	身近なベトナム語の単語を使うことができる。	身近なベトナム語の単語を覚える。	6
	母国の文化を知ろう。	母国の行事や由来を知る。	母国の行事について調べる。	14
3 学期	ベトナム語で何と云うのかな？	簡単なベトナム語を聞いて理解することができる。	簡単な動作をベトナム語で指示する。	10
	ベトナム語で聞いてみよう。	簡単なベトナム語で質問したり答えたりできる。	代わり合ってベトナム語で質問したり答えたりする。	10
	ベトナム語で話そう。	簡単なベトナム語を理解し表現できる。	ベトナム語で伝えたいことを話す。	4

5 母語教育支援事例（特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例）

(1) 事例1

ア 単元

ベトナム語で話そう。

イ 指導目標

ベトナム語で伝えたいことを話す。

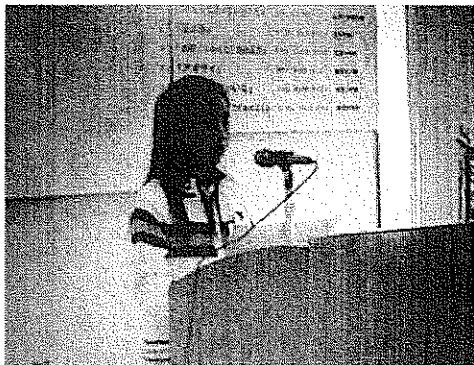
ウ 指導内容・活動例

スピーチコンテストに出場し、日本語とベトナム語で自分の考えを発表する。

エ 指導・支援で留意した点

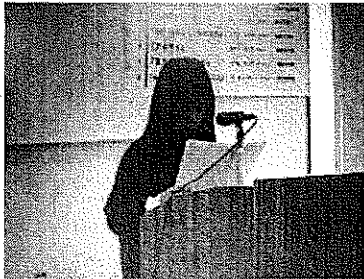
自分の夢や思いについての発表原稿を作成するに当たっては、保護者と自分のルーツについて話し合ったり、保護者の願いを知ったりする機会がもてるように、家庭訪問をして

<スピーチコンテストの様子①>



学習の意味を理解してもらえようにした。それにより、児童の前向きな生き方の一助となるようにした。

<スピーチコンテストの様子②>



オ 成果

自分のルーツを知ることにより、母語や母国に対する興味を高め、ベトナム語を学びたい、話したいという意欲を高めることが出来た。

また、スピーチコンテスト応募作文を作成するにあたり、所定の字数に収めるために、日本語のその場に応じた言い回しを覚えることができた。

カ 課題

母語の能力は、個人差が大きいので、コンテストに出場できるよう、簡単なベトナム語からできるだけ多く話す機会を設けていく必要がある。

(2) 事例 2

ア 単元

ベトナム語の単語を知ろう。

イ 指導目標

身近なベトナム語の単語を使うことができる。

ウ 指導内容・活動例

身近なベトナム語の単語を覚える。自作のベトナム語カルタやビンゴゲームをして遊ぶ。

エ 指導・支援で留意した点

果物や学習用品、日用品など、児童にとって身近な単語を扱うように母語の指導者と協力して作成した。そして児童たち同士で、ベトナム語を言い合ってカルタやビンゴゲームができるようにした。学習の最後に、覚えた言葉を仲間ごとに整理する活動を取り入れた。

<ベトナム語の単語を覚える>



オ 成果

ゲーム感覚で行うことで母語の単語を日本語につなぎ、教科の学習に使える語彙を増やすことが楽しく意欲的にできた。ゲームを楽しむためには、ベトナム語を覚え声に出さないといけないので、進んでベトナム語を覚えたり話したりすることができた。

覚えた言葉を仲間分けすることにより、身近な言葉の上位概念や下位概念を理解することができた。高学年児童の中には、進んで母語の指導者やそのほかのサポーターの先生に、ベトナム語の文字を習い始める児童も出てきた。

カ 課題

話したり聞き取ったりする活動は楽しめたが、高学年でも母語の指導者の書いた文字を丸写しする程度で、母語を読み書きする活動を充実させることは難しかった。まだまだ取り組んだ語彙数が少ない。

6 成果

- (1) 母語に対する関心が少し高まり、母語の文字を学んだり話したり、友達や他学年に紹介したりする意欲が高まった。
- (2) 母国の行事について調べることで、母国の文化や歴史を知ることができた。
- (3) 調べたことを発表することで、母国のことを友達や地域の人に知ってもらうことができた。

7 課題

- (1) 日本生まれの児童にとって、母語を理解し、使える(話せる)ようになるには時間がかかる。まして母語を日本語や教科の学習に生かすとするとハードルはさらに高い。純粋に保護者とのコミュニケーションツールとしての母語を学習するほうが楽しく意欲的に取り組み、効果も上がると感じた。
- (2) 学年を問わず、平仮名もままならない児童に対し、ベトナム語の文字を書かせるのは、無理があると感じた。

<自作カルタを作ってカルタとり>



平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 姫路市立東小学校

- 1 支援言語： ベトナム語
- 2 対象外国人児童生徒の状況
 - (1) 渡日歴の浅い児童は、日本語が十分使いこなせない。ただし、母語に置き換えて考えると理解することができる。
 - (2) 日本語で自分の気持ちを的確に表現することができない児童が多い。
 - (3) 日本生まれの児童は、保護者とベトナム語で会話することができないため親子の意思疎通が難しくなっている。
- 3 事業のねらい
 - (1) 母語教室に積極的に参加する態度を身につける。
 - (2) ベトナム語の基本的な単語やフレーズを表現することができる。
 - (3) ベトナムについて調べたり、母語に興味、関心を深めたりする活動を展開することにより母国を誇りに思える心を育成する。
 - (4) 教科で学習した日本語をベトナム語に置き換え学習を深めさせる活動をする。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	ベトナム語であいさつしよう	ベトナム語であいさつができる	簡単なあいさつを覚え、生活の中で使う	2
	ベトナム語のリズムを覚えよう	ベトナム語の基本的な発音やリズムをまねることができる	自分の名前や身近なものの名前を手本を真似ながら言う	2
	ベトナム語が読めるかな	ベトナム語の簡単な単語を学び、読むことができるようになる	ベトナム語の単語を読む	18
	ベトナムの文化を知ろう(食べ物編)	ベトナムの料理を通して、母国の文化を知る	ベトナムの料理を作る	8
2 学期	ベトナム語の歌を歌おう	ベトナム語の歌を歌うことを楽しむことができる	簡単なベトナム語の歌を歌う	4
	ベトナムの遊びをしよう	ベトナムの遊びに関心を持ち、仲間と楽しむ	ベトナムの遊びを体験する	2
	ベトナム語で何と云うのかな	身近なベトナム語の単語を使うことができる	身近なベトナム語を覚える	12
	ベトナムの文化を体験しよう(交流編)	ベトナムの文化について調べ、他の国と比べたり体験することで母国に誇りを持つことができる	ベトナムの文化や歴史を調べ、日本やその他の国と比べたり体験したりする	8
	交流会に参加しよう	友達の輪を広げよう	交流会を通して友達の輪を広げたり、その他の国の人のことを知ったりする	4
3 学期	自分の思いを伝えよう	自分を見つめ、母語で自分の思いをまとめ、語るができる	ベトナム語で自分の思いを表現する	6
	仲間の思いを聞こう	母語で仲間の思いを聞くことができる	ベトナム語で仲間の思いを聞く	4

5 母語教育支援事例(特に日本語の学習言語習得に効果のあった事例)

(1) 事例1

ア 単元 ベトナム語で何と云うのかな

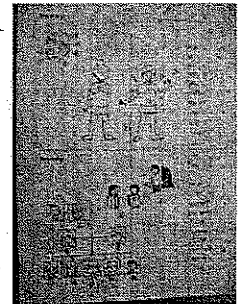
イ 指導目標

身近なベトナム語の単語を使うことができる

ウ 指導内容・活動例

身近なベトナム語を覚える

- ・絵カードを使いグループに分かれて日本語をベトナム語に置き換えて取り合う活動をした。
- ・日本語語彙調査を実施し、基本的な語彙力を把握した上で、母語に置き換えて聞き取る活動をした。



エ 指導・支援で留意した点

- ・日本語単語カードの絵を使って、日本語をベトナム語に置き換えられるように支援した。
- ・日本語語彙調査のベトナム語版を作り母語力の確認をした。

オ 成果

- ・カードを使ったグループ別の活動は、お互いの良い所を認め合う楽しい活動になった。
- ・日本語語彙調査をし語彙力を把握することができ、それを母語学習に生かすことができた。

カ 課題

- ・学年の異なる児童が一緒に活動するため、学習内容が難しくなると低学年児童が理解することは難しい。
- ・放課後活動するため、児童の興味を持続させるのが難しい。

(2) 事例2

ア 単元 自分の思いを伝えよう

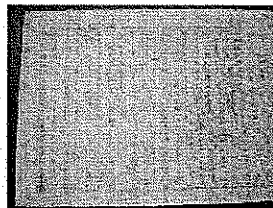
イ 指導目標

自分を見つめ、母語で自分の思いをまとめ、語ることができる

ウ 指導内容・活動例

ベトナム語で自分の思いを表現する

- ・カレンダーを作り、したことを日本語とベトナム語で表現する。
- ・自分の思いを作文に表し日本語とベトナム語で伝えられるようにする。



エ 指導・支援で留意した点

- ・ベトナム語でカレンダーを作り、日本語とベトナム語で簡単な挿絵の説明ができるように母語支援者が母語訳を書く。
- ・自分の思いを作文に表現し、母語支援者がベトナム語訳をつける。

オ 成果

- ・日本語をベトナム語に、ベトナム語を日本語に置き換えることにより、言葉を的確に学習することができた。
- ・日本生まれの児童が多いため、ベトナム語の読み書きは苦手であったが、簡単な単語をつなぎながら文にすることができるようになった児童がいる。
- ・自己を見つめ、ベトナム人としての思いや願いを作文に綴る学習課程で、ベトナム人としてのアイデンティティを獲得していった。

カ 課題

- ・日本語をベトナム語に、ベトナム語を日本語に置き換えることは難しく時間がかかる。そのため母語支援者のサポートが必要である。

6 成果

- (1) 料理や文化を学ぶ活動や、他校との交流会等の体験活動は楽しんで参加することができる。
- (2) ベトナム人の仲間と活動する機会は、日本で暮らす外国人としての自己を見つめ、互いに助け合ってがんばろうという思いを育てている。
- (3) 日本生まれの児童にとって、保護者の話すベトナム語が理解できるようになるため

に学習することは、親子の関係を深めることにつながっている。

7 課題

- (1) 週一回の母語教室では、母語習得までには至らない。今後も継続していき、母語と日本語が単語レベルから文章レベルまで使いこなせるようになると、会話だけでなく思考や作文の上でも生かされてくるのではないか。
- (2) 児童がベトナム人としてのアイデンティティを確立し自己実現させていく力をつけるためには、仲間と共に励まし合ってベトナム人であることを周囲に伝えられる場作りが必要である。
- (3) 母語習得と日本語の習得をどのように絡めて伸ばしていくことができるか系統だてた指導体型を研究する必要がある。

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 姫路市立花田中学校

1 支援言語 ベトナム語

2 対象外国人児童生徒の状況

(1) 校内支援対象児童生徒数 25人

(2) 状況

小さいころから日本で暮らしているため、日本語の日常会話は十分に習得している生徒が多いが、母語であるベトナム語はほとんど使っていないか、家で少し使っている程度の生徒が大部分である。特に、母語を話すことができても、読み書きできない生徒がほとんどである。

3 事業のねらい

- (1) ベトナム語の母語教室の活動に積極的に参加する態度を身につけさせる。
- (2) ベトナム語の基本的な単語やフレーズで表現できることができる力を養わせる。
- (3) 母国の言葉や文化に関心を持ち、積極的に調べようとする意欲を育てる。
- (4) 各教科で学習した言葉をベトナム語に置き換えることができるように支援を行う。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	ベトナム語であいさつしよう。	ベトナム語であいさつができる	ベトナム語のあいさつを覚える。	4
	自己紹介をしよう。	簡単な自己紹介の文を作り、書いたり話したりできる。	名前や年齢を正しく発音したり書いたりする。	8
	歌を覚えよう	ベトナム語の歌を覚え、うたうことができる	ベトナム語の歌を覚える。	3
2 学期	ベトナム語のアルファベットを覚えよう	ベトナム語のアルファベットを覚える	ベトナム語のアルファベットを覚える	8
	ベトナム語で自分の家族を紹介しよう	簡単な自己紹介の文を作り、書いたり話したりできる。	名前や年齢を正しく発音したり書いたりする。	8
	ベトナム語の地理や歴史について学習しよう	地名、歴史の名称などを書いたり、読み取ったりできる。	地名、歴史に関する文章の内容などを読み取る。	8
3 学期	ベトナムと日本の習慣の違いについて考えよう	ベトナムと日本の習慣の違いがわかり表現できる。	ベトナムの行事、日本の行事を比較する。	8
	ベトナム語で書かれた文を読もう	ベトナム語の簡単な文章を読み取ることができる。	ベトナム語の物語などを読む。	8
	教科で学習した言葉をベトナム語に置き換えよう	教科書の日本語をベトナム語で置き換えることができる。	教科書を使ってベトナム語に翻訳してみる。	8

5 母語教育支援事例（特に日本語の学習言語習得に効果的で合った事例）

(1) 事例1

ア 単元

「ベトナム語でかかれた文を読もう」

イ 指導目標

簡単な日本語、ベトナム語を相互に翻訳することができる。

ウ 指導内容・活動例（翻訳に挑戦する）

- ・ 「かんじだいすき」を使用しながらそれぞれの漢字の意味を理解し、ベトナム語におきなおしてみる。

- ・ 「日本語を学ぼう」に出てくる文章や絵、言葉などをベトナム語で表現してみる。

- ・ 「Tieng Viet」を日本語に訳してみる。

エ 指導・支援で留意した点

- ・ ベトナム語より日本語のほうがよく理解できている生徒のほうが多いので、日本語をベトナム語に置き換える作業を通して、ベトナム語を書くことに慣れるようにした。
- ・ 日本語、ベトナム語ともに語彙が増えるように配慮した。

オ 成果

- ・ ベトナム語、日本語の語彙を増やすことができた。

- ・ ベトナム語、日本語の翻訳作業を通してそれぞれの言葉や文化の共通点などに気づくことができた。

カ 課題

簡単な語彙や文だけでなく、細かい感情を表現できるような言葉や文章の理解ができるようにしていきたい。

(2) 事例2

ア 単元

教科で学習した言葉をベトナム語に置き換えよう。

イ 指導目標

各教科で学習した言葉をベトナム語に置き換えることができる。

ウ 指導内容・活動例（地図の読み取り）

- ・ 中学校社会科（地理）の教科書を使って日本語の文章をベトナム語に訳し、理解する。
- ・ 白地図に地名、地形などを日本語、ベトナム語両方で記入して完成させる。

エ 指導・支援で留意した点

- ・ 図などが理解を助けてくれるので、語彙力がなくても取り組みやすいと考え、まず社会科の地理分野から取り組んでみた。
- ・ 地図、地球儀など目に見えて理解しやすいものを準備するように心がけた。

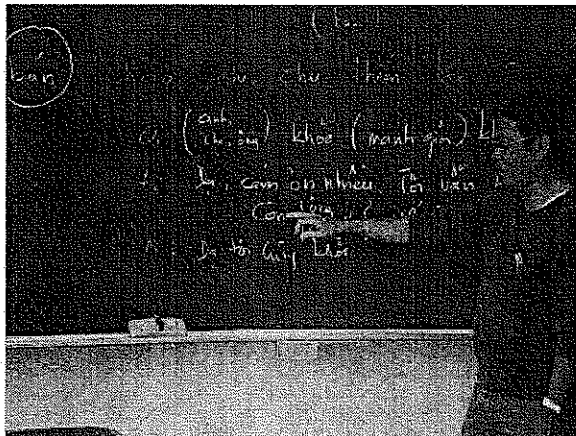
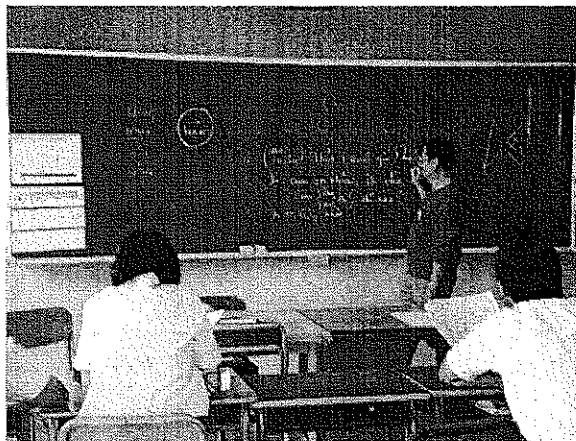
オ 成果

地理の教科書で内容を訳していく作業に慣れることができた。

カ 課題

語彙を増やししながら、図などが少なく、言葉のみで思考する教科（国語、歴史など）に関しても言葉の置き換えが抵抗なくできるようにしていきたい。

(4) サポーターとも連携しながら、各教科で学習した言葉をベトナム語に置き換えるなど、授業との関連をもたせながら、ベトナム語学習を進めていきたい。



6 成果

- (1) 簡単な挨拶を覚え、日常でも挨拶ができるようになってきた。
- (2) テキストの学習に取り組む中で、読むこと、書くことが少しずつ身についてきている。
- (3) ベトナム、日本、それぞれの文化・習慣に興味を持つことができてきた。

7 課題

- (1) ベトナム語を話すことに比べ、読む書くことができない生徒が多いので、今後は書くことに重点を置いた学習方法を工夫したい。
- (2) ベトナム籍の生徒が多数在籍しているが、その中で母語教室に参加する生徒は、少ない。その原因として、時間帯が放課後のため、部活動との兼ね合いもあって参加しにくいことや、ベトナム語の学習に対する意識が高まっていないことがあげられる。
- (3) 一人ひとりベトナム語の習得レベルがばらばらなので、個々の習熟度に応じた学習を計画することが難しい。

**平成21年度
新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例
姫路市立東光中学校**

1 支援言語 : ベトナム語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 幼い時に渡日したり日本で生まれ育った生徒が多いが、渡日して3ヶ月の生徒もいる。
- (2) 日本語の日常会話はできるが、ベトナム語があまり理解できていない生徒が多く、中には全く話せない生徒もいる。
- (3) 生活言語は理解しても学習言語の習得が十分でない生徒もいる。

3 事業のねらい

- (1) 母国の言葉や文化への関心を高める。
- (2) ベトナム語の基本を学び、ベトナム語の文章を読んだり書いたりできる。
- (3) ベトナム語の発音を身につけ、読んだり書いたりできる。
- (4) ベトナム語を日本語に置き換え学習言語の習得を図る。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1 学期	母国を知ろう。	ベトナム語であいさつができる。母国に対する基礎的知識を持つ。	簡単なあいさつを覚える。母国の紹介。	6
	ベトナム語の発音を身に付けよう。	発音記号を読み区別することができる。	ベトナム語の発音を正しく聞き取ったり発音したりする。	8
	自己紹介をしよう。	ベトナム語で正しく自己紹介ができる。	自分のことや家族のことをベトナム語で紹介する。	8

2 学期	言葉を覚えよう。	身のまわりの単語や日常用語を覚える。	辞書、日常用語集などを活用し、ベトナム語の語彙を増やす。	8
	母国の生活や習慣等を知ろう。	母国の生活や文化等について関心を持つ。	母国の生活や文化等を調べ、日本との違いを考える。	8
	自分や家族の生まれた地域等について調べよう。	自分や家族に関連する事柄に興味を持ち、ベトナムについての理解を深める。	特に自分の身近な存在に関連する事柄を調べ、知識を広げたり母国について考える。	8
3 学期	ベトナム語に置き換えよう。	日常用語、会話をベトナム語に置き換えることができる。	色々な言葉や日常会話をベトナム語に直すことができる。	8
	ベトナム語で作文を書こう。	自分でテーマを決め、ベトナム語で作文を書く。	自分の関心のあること、思い等をベトナム語で書く。	8
	ベトナム語でスピーチをしよう。	ベトナム語でまとめ、正しい発音で発表できる。	ベトナム語で書いた作文をもとにベトナム語で発表する。	8

5 母語教育支援事業例 (特に日本語の学習言語習得に効果的であった事例)

(1) 事例1

ア 単元 母国を知ろう。

イ 指導目標

ベトナム語であいさつができる。母国に対する基礎的知識を持つ。

ウ 指導内容・活動例

簡単なあいさつを覚える。母国の紹介。

エ 指導支援で留意した点

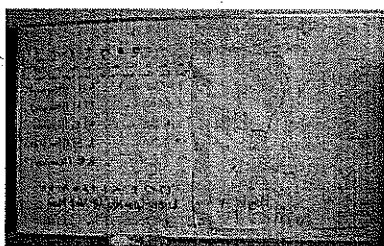
身近で基本的な言葉等を調べ、 掲示物を作成する中で発見したり知識を広げさせる。

オ 成果

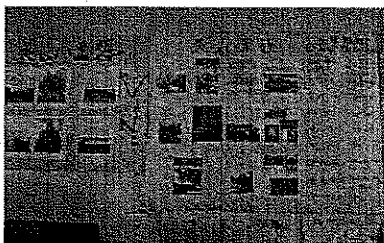
母文化について興味を深めた。

カ 課題

母文化に触れ、多様な文化を知り、文化の違いを理解し、アイデンティティを高める。



掲示物1 (ベトナムの地図、数字等)



掲示物2 (ベトナムの風景等)



作成する様子

(1) 事例 2

ア 単元 言葉を覚えよう。

イ 指導目標

身のまわりの単語や日常用語を覚える。

ウ 指導内容・活動例

- ・ 日常的によく使う単語を習得する。
- ・ 絵に打った番号に名称のカードを貼って繰り返しながら覚えていく。
- ・ カードで音読の練習もする。

エ 指導・支援で留意する点

- ・ 日本語の不十分な生徒を対象に行った。
- ・ 視覚に働きかけることで興味を持ったり、

印象に残るようにする。

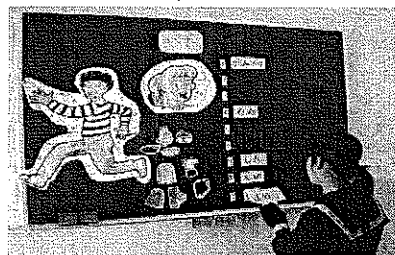
- ・ 音読による発音の練習もさせる。
- ・ 知識が確かになるよう何度も繰り返す。

オ 成果

- ・ 繰り返すことによって覚え、語彙が増えた。
- ・ 身のまわりの他の単語にも興味を持って、語彙が増すよう意欲的に取り組んでいる。

カ 課題

- ・ 多数ある単語や言葉の使い方が混乱しないように何度も復習をしながら進めていく。



カードを貼る様子

6 成果

- (1) 簡単な自己紹介や、身の周りの単語をベトナム語に訳せる生徒が増えた。
- (2) ベトナム語で話すことはあまりできないが、ベトナム語を聞き、ある程度理解できるようになった。
- (3) ベトナムの文化への関心が高まった。
- (4) 日本語ができない生徒については身の周りの単語や簡単な文を理解できるようになった。

7 課題

- (1) 週1回なので、定着しにくい面がある。
- (2) 生徒の状況に応じた教材の開発。
- (3) 母語学習の意欲が低い生徒もおり日々の教科学習や部活動を優先する傾向にある。
- (4) 母語学習の意義の理解とアイデンティティを高める意識を持たせる。
- (5) 日本語が不十分な生徒や学習用語の理解しにくい生徒にも対応できる支援を図る。

平成21年度 新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業実践事例 南あわじ市立湊小学校

1 支援言語：ポルトガル語

2 対象外国人児童生徒の状況

- (1) 家庭では母語のみを使用し、休み明けには、日本語が不十分な児童が母語をよく使う。
- (2) ダブルリミテッドの児童が1名おり、基礎学力が定着しにくく、個別指導をしている。
- (3) 中学生（4月本校より進学）1名も参加しているが、部活動との両立が難しい。
- (4) 8月に本校児童4名が母国に帰国し、対象児童は少人数だが、熱心に参加する。
- (5) 渡日した年齢により、単語数、母語による読み書きの能力に差があるが、家族ぐるみの交流があり、児童相互の助け合いがよくできる。

3 事業のねらい

- (1) ポルトガル語の活動に積極的に参加する。
- (2) ポルトガル語の文を読んだり、書いたりすることができる。
- (3) 母語で自分の意見をはっきりと述べ、発信できる。
- (4) 母国の言葉や文化に関心を持ち、積極的に調べようとする。
- (5) 教科で習った重要語句を、ポルトガル語に置き換えることができる。

4 年間指導計画

	単元名	指導目標	指導内容・活動例	時数
1学期	ポルトガル語で自己紹介しよう。	・ポルトガル語で自己紹介できる。 ・友だちの好きな物、嫌いな物を聞き取り、メモできる。 ・家族を教す言葉が分かり、家族紹介ができる。	・自分の好きな物（こと）、嫌いな物（こと）をみんなに紹介しよう。 ・自分の性格やおもしろい稱を、お父さんやお母さんになったつもりで、紹介をする。	6
	お誕生日を発表しよう。（カレンダー作り）	・ポルトガル語で○月○日○曜日の表し方が分かる。 ・ブラジルの季節（雨季と乾季）、祝日が分かる。	・月、曜日をリズムよく覚える。 ・自分たち、家族の誕生日をカレンダーに書き込み、ブラジルの行事も書き入れる。	6
	ブラジルの文化を知ろう。 母国のことを発表しよう。	・ブラジルの文化、遊び、祭りや行事に関心をもつ。 ・日本の学校との違いを表に表す。	・ブラジルの祭りや行事について調べ、新聞形式でまとめる。 ・1日2交代制、教科の違い、食べ物の持込みや売店のこと。	6
2学期	買い物ゲームをしよう。	・ポルトガル語で買い物に使う表現が分かる。（果物、レストラン）	・果物カード、食べ物カードを使って、果物、食べ物の読み書きを覚える。 ・売り手、お客になって買い物体験する。	4

2学期	インタビューをしよう。（新聞、雑誌）	・ポルトガル語で質問したり、答えたりする。	・インタビューを受ける。 ・レポーターになり、インタビューする。	6
	ブラジルの昔話を聞こう。	・物語の中の、気持ちを表す表現を使ってみる。	・気持ちを表す「絵カード」で、読み書きを学ぶ。 ・自分の気持ちを表す言葉カードを選んで話す。	4
	ポルトガル語の絵本を読もう。	・あらすじが言える。 ・感想をポルトガル語で言え、書ける。	・好きな絵本を選んで読む。 ・感想を書き、発表する。	8
	ブラジルの地図を学ぼう。	・海、川、赤道、州の名前、大きな市の名前が書ける。	・白地図に地名を記入する。 ・「穴あきクイズ」や「頭文字のイントロクイズ」で楽しく覚える。	4
3学期	ブラジルの文化を発信しよう。	・ブラジルらしい「オリジナルの劇」を作って全校に発信する。 ・登場人物や事件を工夫して、簡単なポルトガル語の物語を作る。日本語訳を付ける。	・Webサイト（ピカバウ アマレイロ）を参考にして、主人公、登場人物、場面を考え物語を作る。 ・お面や小道具を作る。 ・みんなで一緒に楽しめる歌、ダンスを調べる。	24

5 母語教育支援事例

(1) 事例1

ア 単元

インタビューをしよう

イ 指導目標

母語で自分の意見をはっきりと述べ発信する。

ウ 指導内容・活動例

母語の新聞、雑誌を読んで、自分の感想や意見を母語で書き、述べる。

(ア) 前時学習の終わりに、ファッション・スポーツ・ペットなど個々の興味・関心に合わせて、ポルトガル語雑誌の切り抜き記事を渡しておく。写真・絵や色のイメージから感じることや、記事を読んで思ったことを家で書いてくる。

(イ) 順番に話者と質問する人に分け、母語で自分の意見の交換をする。

(ウ) 誤字や文型、単語の活用を添削して書き直し完成させる。

エ 指導・支援で留意した点

(ア) はじめは形にこだわらず、聞いて思ったことを、どんどん話すことに重点をおく。また、指導者もインタビューをする側となり、視点を与えて意見を引き出したり、二人の意見をうまく絡ませたりするよう工夫する。

(イ) 語彙指導…そのとき登場した色・スポーツ・衣服で同類の言葉を「言葉集めゲーム」の形式で行い、語彙を増やす工夫をする。また、必ず筆記して誤字脱字のチェックをする。

(ウ) 褒める…自信をもたせる。宿題をしてくる習慣づけをする。

オ 成果

(ア) 母語で思いっきり表現すること、自分の意見を聞いてもらい認められることで、自信を持つことができた。その自信が「どのように表現すれば、相手に自分の気持ちを伝えられるか」がわかり、日本語での表現意欲が喚起された。

(イ) 色やスポーツの種類言葉集めは、競い合って生き生きとできた。

カ 課題

(ア) 母語で自分の思いを表現（話す・書く）するときの系統だった文型ワークの作成。

(イ) 雑誌記事からでは、前もって内容や語彙がつかめず、計画的な指導が難しい。

(2) 事例2

ア 単元

ブラジルの文化を発信しよう！

イ 指導目標

ブラジルらしいストーリー、登場人物、場面を工夫して表現する。

ウ 指導内容・活動例

(ア) 「マルシャソダード」の歌を児童がカタカナに直し、各クラスの終わりの会で練習してもらえるようお願いする。

(イ) 楽しく踊る場面で使う、「HODA」のダンスを練習する。

(ウ) Webサイトの子供番組から（とうもろこしを主に、馬、トウモロコシの人形が出てくる）話をあらすじを考えて作る。展開の面白さを考えストーリーをふくらませて、セリフを考える。子ども多文化共生サポーターの力を借り翻訳し、日本語とポルトガル語の二カ国語版をつくる。

(イ) 面作り、背景面のトウモロコシ畑作りは、児童に任せる。

(ウ) 特活（児童集会・外国発表）で発表する。

エ 指導・支援で留意した点

(ア) 母国の紹介が、自信と誇りをもってできるよう、在籍学級担任をはじめ準備の各場所で、全職員の協力を得る。

(イ) 児童の自主的な発想を活かし、また、児童が普段好むリズムやダンスを構想に織りこんで組み立てる。

オ 成果

(ア) 歌、踊り、絵それぞれに、明るく陽気で楽しいブラジルらしい文化が表現で

きた。また、全校生が歌うポルトガル語の歌に合わせて入退の行進をし、ブラジルの文化を通して交流ができた。

(イ) 劇づくりにいきいきと取り組み、異文化を発信できた。

(ウ) みんなで話し合っ、トウモロコシ人形が馬に食べられそうになったり、おばさんに洗濯機で洗われそうになったりと、楽しい物語を協力して作り上げた。

カ 課題

(ア) 多くの時間を費やしたこと。背景画は、児童の手作りコンピューター画面にしたが、なお、物作りに多くの時間を使ってしまう。

(イ) 児童数が減少した場合、役が作れなくなるため、劇化ではなく、絵本づくりなど書き言葉で母文化の発信をする。

(ウ) 母語指導者の連続した支援を得るための、日程調整と日数確保が難しい。

6 成果

(1) 母語を使って読み書きをする学習時は、発語・発言の機会が多く、生き生きとして活気がある。また、母語、日本語力に差がある児童による相互扶助の場であり、渡日後日数の浅い児童の方が母語に強く、活躍できる場となる。一方、低学年から日本で学び、日本語の基礎がしっかりしている児童は、母語の語彙が少なく流暢には読めない。お互いに助け合い補い合える。

(2) 母語で生き生きと話すことにより、日本語での表現意欲が喚起される。

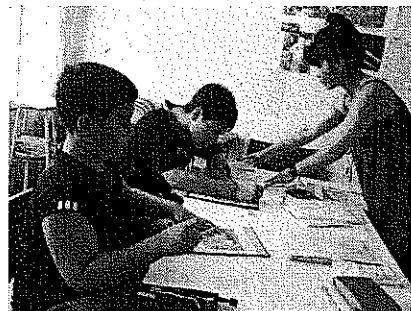
(3) 日本人児童には、母語も日本語もできる子として映り、母語の使用に自信がもてる。

7 課題

(1) 自己の確立のため、日々の日記指導などを通して、日常的に母語で自分の思いを言語化しようとする態度・能力の育成。

(2) 渡日時に、どのくらいの母語力を持っているのかを測る評価シートの作成。

(3) 保護者が自主的に行っている、コミュニティーでの児童を対象にした母語教育との日程、内容の調整。



平成21年度 母語教育センター校で活用した教材・教具

言語	No.	教材・教具名	出版社等	学校名	備考
インドネシア語	1	Matemática SD Bahasa dan Sastra Indonesia など	インドネシアの教科書	神原小	
	2	アルファベット文字カード 手作り語句カード、カルタ	自作教材	神原小	
	3	こどものにほんご1、2	スリーエーネットワーク	神原小	西原鈴子監修
	4	絵でわかるかんたんかんじ 80 160 200	スリーエーネットワーク	神原小	飯沼野市様園・外国人教育相談室教材開発グループ編纂
	5	帰国・外国人児童生徒のための「教科書ライト教材集」	西宮市教委作成	神原小	市総合教育センター 研修グループ 国際教育チーム
	6	単語一覧表のプリント	自作教材	神原小	
スペイン語	1	Coquito Basico	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	2	Coquito Deoro	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	3	Coquito Nuevo	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	4	EL Patite encantado	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	5	CUENTOS CLASICOS	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	6	Pulgarcito	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	7	EL lobo	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	8	EL CHANCHIT VOLADOR	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	9	LOSCUATRO MUSICOS	ペルーの子ども向け教科書	潮見小	
	10	チャレンジミッケNo1	小学館	潮見小	
	11	チャレンジミッケNo2	小学館	潮見小	
	12	チャレンジミッケNo3	小学館	潮見小	
中国語	1	中国語のCD(The Nightingale 等)		こうべ小	
	2	中国語の漢字カード	北京語言大学出版社	こうべ小	
	3	「にほんごワークブック」	凡人社	こうべ小	
	4	「反対ことばカード」	くもん出版	こうべ小	
	5	「ことば絵じてん」	児童手作り	こうべ小	
	6	画用紙での手作りのゲームカード	児童手作り	こうべ小	
	7	「人の名前」(主語)			
	8	「どこで」(副詞 場所の名前)			
	9	「どのように」(副詞)			
	10	「なにを」(動詞)			
	11	汉语拼音卡片(ピンインカード)	商務印書局	山の手小	315円
	12	《成語詞典》(熟語辞典)	商務印書局	山の手小	635円
	13	《义务教育課程標準実験教科書 語文》(義務教育課程標準実験教科書・国語)	人民教育出版社	山の手小	ダウンロード(無料)
	14	《同步练习 語文》(練習帳・国語)	人民教育出版社	山の手小	ダウンロード(無料)
	15	《语文练习》(国語練習帳)	人民教育出版社	山の手小	ダウンロード(無料)
	16	《义务教育課程標準実験教科書 同步阅读》(義務教育課程標準実験教科書国語読)	人民教育出版社	山の手小	ダウンロード(無料)
	17	漫画ワンピース中国語版	内蒙古人民出版社 [40冊]	神陵台小	260円
	18	中国語練習教材	中国戏剧出版社 学拼音	神陵台小	5元
	19	中国語の絵本	吉林美術出版社	池尻小	
	20	ピンイン表		池尻小	
	21	絵カード		池尻小	
	22	中国の遊び(すごろく、チエンス、皿回し、切り絵、こま)		池尻小	
	23	にほんごをまなぼう(文部省)	文部省	池尻小	
	24	はじめての中国語学習帳	NHK 出版	池尻小	
フィリピン語	1	フィリピンと出会おう	国土社	本山第二小	
	2	オリブかあさんのフィリピン民話	星の環会	本山第二小	
	3	フィリピンの民話	青土社	本山第二小	
	4	フィリピン語基本単語	明日香出版社	本山第二小	
	5	日本語—フィリピン語—英語辞典	国際語学社	本山第二小	
	6	English Tagalog Dictionary	National Book Store	本山第二小	
	7	フィリピン語・英語併記のフィリピンの絵本	May Mga Lihim Kami Ni Inggkong	本山第二小	現地購入(個人所有)
	8	スンカ(板と貝殻で遊ぶ双六)		本山第二小	
	9	パロタガログ(フィリピンの男性の伝統的民族衣装)		本山第二小	
	10	七ヶ国語学習言語集	(公財)兵庫県国際交流協会	本山第二小	HPよりダウンロード
	11	ジープニー(フィリピンの乗り合いバス)とトライシクル(三輪タクシー)の玩具		本山第二小	

ベトナム語	1	「Tieng Viet Vui」(ベトナム語の練習帳)	トッカピ子ども会	真陽小	
	2	ベトナム語カルタ	自作教材	真陽小	
	3	ツイスターゲーム		真陽小	
	4	獅子舞(ムーラン) 道具一式		真陽小	
	5	ベトナムの伝統楽器(太鼓)		真陽小	
	6	ちょうちん作成キット(セロハン・竹ひご・針金)		真陽小	
	7	「たのしいベトナム語」	NPO法人 トッカピ子ども会	園田北小	大阪府八尾市
	8	絵カード(動物、くだもの、やさい)	自作教材	園田北小	
	9	自分でつくった創作絵本	自作教材	園田北小	
	10	EM HOC VIET NGU	Nha Xuat Ban MAM NON	花田小	
	11	EM HOC TIENG VIET	Tu Sach Van Hoa Giao Duc	花田小	
	12	TAP VIET	Trung Tam Viet Ngu Hong Bang	花田小	
	13	CON TIM VIET NAM	Tuoi hoa PUBLISHING	花田小	
	14	GIAO KHOA VIET NGU	KHOI TU THU BIEN SOAN	花田小	
	15	旅の指さし会話帳 ベトナム語版	情報センター出版局	花田小・城東小	
	16	ベトナム語かるた	自作教材	花田小	「五色英語かるた」(東京教育技術研究所)を活用
	17	Tieng Viet	ベトナム語の教科書	花田中・城東小	
	18	Em hoc TIENG VIET	ベトナム語の教科書	花田中	
	19	com TIM VIET NAM	ベトナム語の教科書	花田中	
	20	「日本語を学ぼう」	文部省	花田中・東光中	
	21	「かんじたいすき」	国際日本語普及協会	花田中	
	22	ことばあそび ことばカード	コーキ出版	城東小	
	23	ひらがなことばカード1・2・3集	くもん出版	城東小	
	24	子どものための5か国語絵単語帳「これって、なに？」	チャレンジ日本委員会編	城東小	
	25	母語学習プリント		城東小	
	26	楽しく覚えよう! 英単語	講談社	城東小	
	27	自作カルタ	自作教材	東小	
	28	ベトナムの国語の教科書1年編	ベトナム語の教科書	東小	
	29	日越越日辞典	大学書林	東小	
	30	食べる指さし会話帳 ベトナム	情報センター出版局	東小	
	31	ベトナムの地図 ベトナム語版	ベトナムで購入	東小	
	32	公文式ひらがなカード	くもん出版	東小	
	33	公文式カタカナカード	くもん出版	東小	
	34	日本語語彙調査プリント	難民事業本部関西支部	東小	
	35	ベトナム語語彙調査プリント	自作教材	東小	
ポルトガル語	1	Cantos e Lendas do Folclore Brasileiro 第一集、二集	IP JAPAN	湊小	
	2	International Press, Free Paper Brasil		湊小	
	3	ブラジルと出会おう	国土社	湊小	IAPAポルトガル語教室(編)
	4	エリコ・ヴェリッシンモのお話玉手箱①、②	国際語学社	湊小	
	5	DICIONARIO ILUSTRADO	IP JAPAN	湊小	
	6	ブラジルのごはん	農文教	湊小	
	7	CD(HINOS DO BRASIL,CANCOES DE BRINCAR,SUPER FANTOSTICO)		湊小	

平成21年度兵庫県の母語教育支援事業について
—母語教育支援と日本語習得—

龍谷大学経済学部教授 田尻 英三

1 はじめに

兵庫県教育委員会における「新渡日の外国人児童生徒にかかわる母語教育支援事業」では、母語教育支援をとおして日本語能力の向上も目指すという難しい試みをしています。私は、2009年度からこの事業のお手伝いをするようになりました。

従来、新渡日の外国人児童生徒は生活のための日本語は比較的早く習得しますが、小中学校で勉強するためには別に学習言語能力というものの向上が必要と言われてきました。特に、外国人児童生徒の母語の能力と学習言語の能力は関連すると言われてきて、小中学校における成績不振はこの学習言語能力の不足のためと言われてきました。一般的にはそのような傾向は考えられますが、実際にはそれぞれの児童生徒の状況を見てみると、そう簡単には説明できないことがわかります。つまり、それぞれの児童生徒の母語能力が違い、次第にその児童生徒の母語能力が低くなっていくことを見ていると、母語と学習言語の関係をもう一度考え直してみる必要を私は感じています。

母語教育のもう一つ大事なポイントは、アイデンティティの確立です。外国人児童生徒が自分の国ではない国で生活し勉強するときに、自分を支えるためにも個人の誇りや自尊心は大事です。ただ、学校でその児童生徒の言語や文化を必要以上に強調することは、日本人の児童生徒との差別化となり、結果としていじめの対象にもなりかねません。学校現場では、この難しいバランスに苦しみながら先生方は指導なさっているのです。

言語教育においては、国語・日本語・外国語などの教科の枠を超えて、新しいビジョンを構築しなければなりません。2010年前半にひつじ書房から、日本語教育・国語教育・外国語教育・言語教育・外国人の看護師介護福祉士候補者の研究者・日系人日本定住の研究者と一緒に本を出す予定です。私の全体的な考えは、そちらを読んでください。

2 私の過去の実践

私は、2003・2004年度京都府宇治市の小中学校で主に中国籍の児童生徒の日本語習得のお手伝いをしました。ここには中国残留邦人の家族呼び寄せで渡りし日本国籍を取得した児童生徒もいますが、当然のことながら日本語能力が不足しているのが実情です。国籍と言語能力は関係しません。児童生徒によっては、生まれてから何度も中国と日本を行き来しているために、日本語も中国語も十分に習得していないダブルリミテッドという状態の児童生徒もいます。

この小中学校では取り出しクラスとして中国語の勉強もしていましたが、概して児童生徒の中国語学習の意欲はあまり感じられませんでした。親のほうは、仕事の都合でいつ中国に戻るかわかりませんので、中国語の勉強をしてほしいと考える人が多くいました。児童生徒の日本語能力が向上するにつれ、親子のコミュニケーションの時間が減ってきました。ただ、親の意識調査をした結果、親の児童生徒への関わり方の程度とその児童生徒の学校での成績との関連は、あまり見られませんでした。

この調査の結果の一部は、<http://www.uji.ed.jp/minamiuji-jhs/>に出ています。

3 母語教育と日本語習得の研究

母語教育と日本語習得を考えるとときには、二つのアプローチがあると考えています。一つは中間言語研究のアプローチで、日本語習得の段階で「～してあげる」や「～してもらおう」はどの国の人にも習得しにくい項目であり、特に学習者の母語別の指導は必要がないという立場です。もう一つは対照研究のアプローチで、学習者の母語によって日本語習得のポイントが違ふと考える立場です。私は、この立場を取っています。

また、第二言語習得の臨界期についても、立場が分かれます。私は、一つの言語をきちんと習得している人ほど二つ目の言語を習得する能力が高いと考えています。だからそこ、ダブルリミテッドの児童生徒の問題は大きいのです。第二言語も早いうちに教えたほうが良いと考える人たちもいます。今、その人たちが中心になって小学校での外国語教育（実際には英語教育）を進めています。

第2回目のセンター校等連絡会では、中国・韓国・フィリピン・インドネシアなどの国での言語状況を説明し、「日本語」というものも明治以降の国民国家の成立と平行して作られていったことを説明しました。最後に、私が一番使いやすいインドネシア語を例にして、インドネシア語使用者の日本語習得における問題点を文化の側面も交えて説明しました。

4 2009年度の取り組みと課題

2009年度の3回の連絡会での現場の先生方のご発表を聞いて、改めて母語教育支援と日本語習得支援の難しさを感じました。連絡会以外でのメールでの指導・助言はできませんでしたが、私なりに問題点は共有したつもりです。

その際に私が感じたことは、外国人の児童生徒の言語状況がはっきり見えてこないということでした。最近出版された『イチからはじめる外国人の子どもの教育』（臼井智美編、教育開発研究所刊、2009年）でも、「母語（第一言語）の習得が未熟な状態で来日している場合」や「母語（第一言語）をある程度習得してから来日している場合」の児童生徒のことは扱われていますが、実際には母語も日本語も十分に習得していないまま毎日学校へ来ている児童生徒が多いのではないのでしょうか。『中国帰国者三世四世の学校エスノグラフィー 母語教育から継承後教育へ』（高橋朋子著、生活書院刊、2009年）にも、「現段階では、本研究の対象児童のアイデンティティ言語については保留とせざるを得ない」と述べられています。

他の地域の実践例として、先に母語で該当箇所を説明してから日本語でその箇所を扱うとうまくいったという報告がありますが、この方法はいろいろな場面や教材でうまくいくという保証はありません。また、アイデンティティの確立のために母語教育を保障しようと動きは大事なのですが、では実際にどうすればいいのかとなると明確な方向性は示せません。最近の研究では、長期日本に住み、親の仕事の都合でブラジルに帰った日系人の児童生徒がブラジル社会に溶け込めないという調査結果が出ています。問題は国境を越えて広がっています。

また、外国にルーツを持つ児童生徒の言語教育は、学習言語の習得が主目的ではなく、学習参加の意欲が問題なのでテストの点数は関係ないとする他地域の報告もありますが、これでは対象の児童生徒への教育の主要な部分を最初から放棄しているとも受けとられかねません。

文部科学省は、小学校入学前の子どもの教育にも力を入れてきましたが、その実践例として、愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室が2009年10月に作成した『プレスクール実施マニュアル』が役に立つと思います。「おすすめ！教材・活動集」は当然助かりますが、「語彙調査」のカードを使って小学校入学前の母語の語彙力の一部を測ることができます。この資料のデータは兵庫県教育委員会に預けていますので、問い合わせてみてください。

5 来年度への取り組み

2010年度の研究テーマは、あくまでも現場の問題点を中心に考えていかなければいけません。2009年度で見えてきた問題点を整理しておきます。

母語教育支援は大変大事なテーマで、全国的に見てもあまり研究していないテーマなので、現場の先生方と一緒に取り組んでいきたいと考えていますが、そのためにも外国人児童生徒の母語能力を把握する必要があるでしょう。日本語能力のチェックシートのほかに母語能力のチェックシートも作成する必要があると感じています。このチェックシートは、小学校低学年・小学校高学年・中学校の三つのレベルで作成しなければなりません。

また、せっかく兵庫県でこのようなすばらしい実践報告があるのに、全国的にはほとんど知られていません。2010年度は、外部へ向けても情報を発信しましょう。そうすれば、いろいろな地域から情報も寄せられます。それは、次の日の実践へ向けてのエネルギーとなります。

参考文献

最近の研究については上にふれておきましたので、参考にしてください。

田尻 英三他『外国人の定住と日本語教育』（ひつじ書房、2007）

田尻 英三編『日本語教育政策ウォッチ2008』（ひつじ書房、2009）

その他、母語教育に関する研究論文のコピーを兵庫県教育委員会に預けていますので、問い合わせてください。